

**Sealed EFI ECU 0.50/1.0/2.8 I/O Connector
(防水 EFI ECU 0.50/1.0/2.8 I/O コネクタ)**

1. 製品名称及び型番

1.1 コネクタ

名称	型番	品名
オス コネクタ	2261071*	キャップ アセンブリ 186 極、防水タイプ、0.50/1.0/2.8 シリーズ
メス コネクタ	2040105*	プラグ アッセンブリ 114 極、防水タイプ、0.50/1.0/2.8 シリーズ
	2040115*	プラグ アッセンブリ 72 極、防水タイプ、0.50/1.0/2.8 シリーズ
ワイヤ カバー	2040114*	ワイヤ カバー 114 極
	2040116*	ワイヤ カバー アセンブリ 72 極
レバー	2040113*	レバー 114 極
キャビティプラグ	1981561*	キャビティプラグ 0.50 型(白色)
	1981562*	キャビティプラグ 1.0 型(灰色)
	828922-1	キャビティプラグ 2.8 型(白色)

Fig.1

*注記: 型番(パーツナンバー)は、リスト中親番にダッシュ付きの1桁の数字をもって構成されます。
各親番に対するダッシュ付き番号の詳細は顧客図面またはカタログを参照下さい。
なお、接頭の数字がゼロの場合は、ゼロ及びダッシュは省略されます。

1.2 端子

<0.50 型 端子>

TE 型番	名 称	適用電線	
		種類	サイズ(mm ²)
1939349-1	リセプタクル コンタクト 0.50 型 (メス端子)	AVSSH/AESSX/AVSS	0.3
1939349-1		AVSSH/AESSX/AVSS	0.5

<1.0 型 端子>

TE 型番	名 称	適用電線	
		種類	サイズ(mm ²)
1939351-1	リセプタクル コンタクト 1.0 型 (メス端子)	AVSSH/AESSX	0.75
		AVSS	0.85
		AVSSH/AESSX/AVSS	1.25
1554723-1	リセプタクル コンタクト 1.0 (S) (メス端子)	AVSSH/AESSX/AVSS	0.5
		AVSSH/AESSX	0.75
		AVSS	0.85

<2.8 型 端子>

TE 型番	名 称	適用電線		シングル・ワイヤー・シール TE 型番
		種類	サイズ(mm ²)	
1-2282364-1	MCP 2.8 ランスレス (メス端子)	AVSSH/AESSX/AVSS	2	828905-1

Fig.2

1.3 その他

<端子抜き治具>

- ・ 0.50/1.0 端子対応(共通) : 2047050-1

1.4 製品の構成図

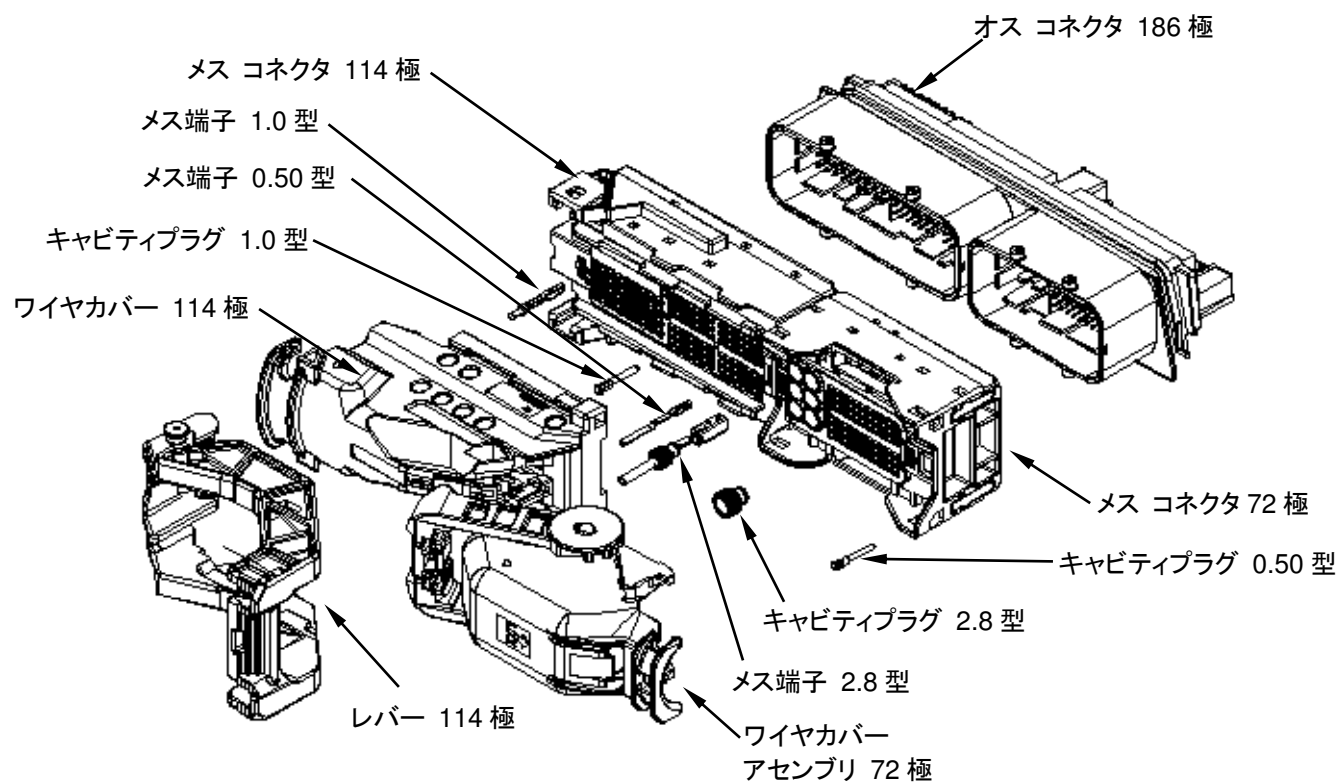


Fig.3

2. 顧客の受入検査

Tyco 品質管理規定により検査を行い、出荷に際しては完全なロット管理を行っていますが、受入検査として少なくとも該当製品の顧客用図面の内容について、検査することが望まれます。

3. 保管および運搬時の取扱いについて

3.1 端子

- (1) 梱包箱から出された状態での放置、運搬は避けて下さい。
- (2) リールのフランジの面だけを持って運ばないで下さい。リールが破損し、圧着機にかからなくなります。

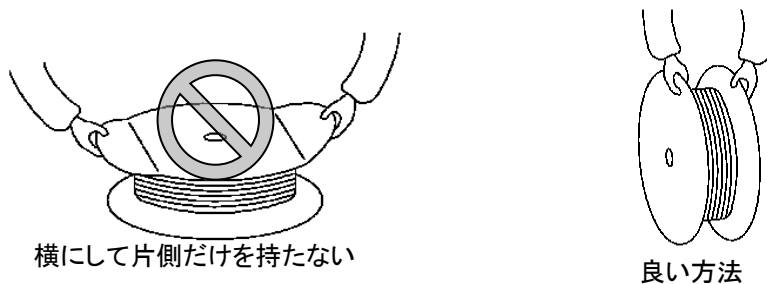


Fig.4

- (3) 湿気の多い所には放置しないで下さい。直射日光にあたらない乾燥した清潔な屋内で、かつ常温常湿(5～35℃, 45～85%RH)の環境下に保管して下さい。
- (4) 圧着機から一時取り外されたリールは、その先端の端子を適切な紐や針金によってフランジに結び、リールがほどけない様にして下さい。

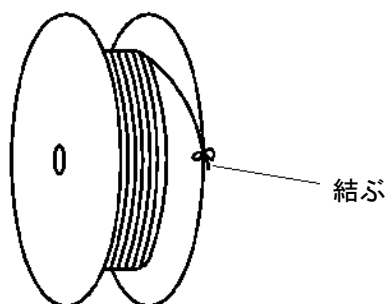


Fig.5

3.2 コネクタ

- (1) 直射日光にあたらない乾燥した清潔な屋内で、かつ常温常湿(5～35℃, 45～85%RH)の環境下に保管して下さい。
- (2) 露出状態での運搬や、長時間放置することは避けて下さい。
- (3) 運搬の際は、落下・衝撃を避けて下さい。

4. 基板への取り付け作業

4.1 製品の取出し

梱包状態からのオスコネクタ取出し時には、Fig. 6 に示す部分を持って取り出してください。

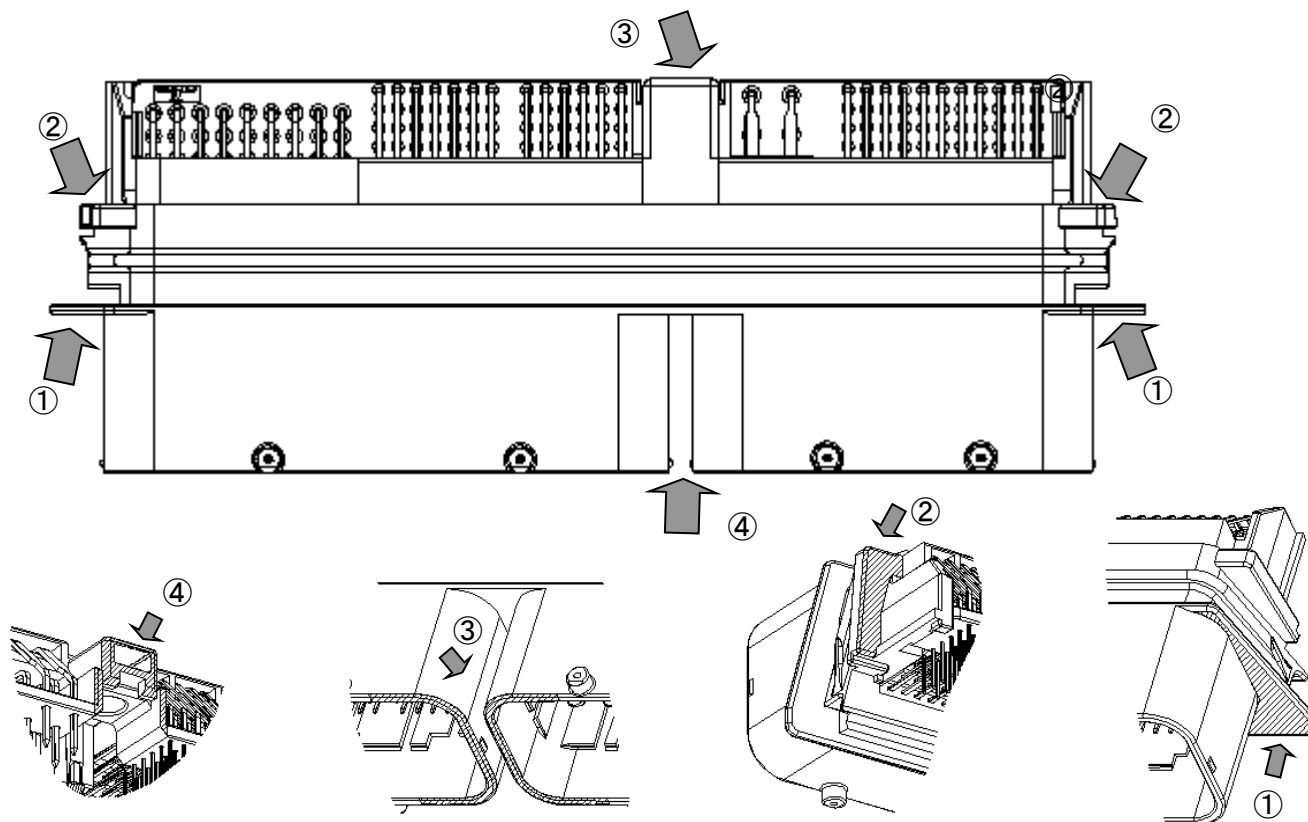


Fig. 6

注意 指定以外の箇所を持った場合には、オス端子・ボードロック等の変形が発生する可能性があります。

注意 取出し時には、オス端子・ボードロック・ハウジング等を傷つき・変形させないように注意してください。

注意 シール面へのゴミ等付着無いように注意してください。

注意 取出し時には、オスコネクタ間口内へ手・指等が入らないようにして下さい。

4.2 基板への取り付け作業

オスコネクタの端子(基板側)を基板の穴に差込んだ後、ボードロックが基板の穴に入り込みコネクタが基板へ着座した事を確認した後、はんだ付けを行って下さい。なお、はんだ付け時にはコネクタと基板のすき間がないことを確認して下さい。

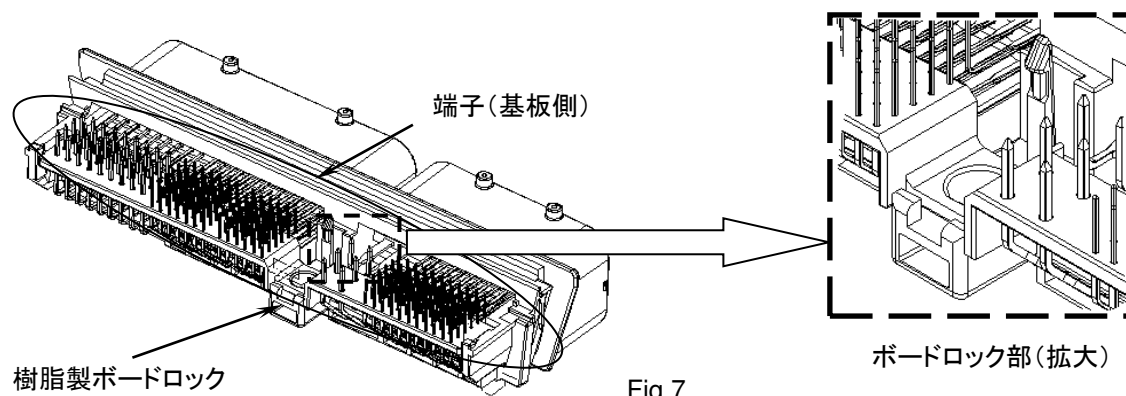


Fig.7

- 注意** 基板への取り付け時に端子(基板側)を変形させないように注意して下さい。
基板への取り付けが出来なくなります。
- 注意** 全ての工程において、端子(嵌合側、基板側)やハウジングを傷つけたり、変形させたりしないよう注意して下さい。また、嵌合部・ケースシール部に異物等の混入・付着がないように注意願います。
- 注意** 基板の推奨寸法は、該当製品の図面を参照して下さい。
- 注意** ボードロックは、はんだ付け工程までの仮固定用でありコネクタと基板の位置を決める部材ではありません。
- 注意** ボードロックは仮固定用です。基板へコネクタ仮固定後は、コネクタを持ったハンドリングはしないで下さい。
基板とコネクタの位置ずれ、オス端子・ボードロックの変形、基板の落下等が発生する可能性があります。
- 注意** はんだ付け時の熱で端子やハウジングに変色、変形のないように注意して下さい。

5. 圧着作業

圧着作業は、必ず当社指定の工具を使用いただき、指示された規程に従って、正しく実施して下さい。

5.1 電線

5.1.1 適用電線

適用電線については、Fig.2 を参照願います。

5.1.2 端末加工上の注意

芯線に傷・切断・切欠き等がないように注意して下さい。

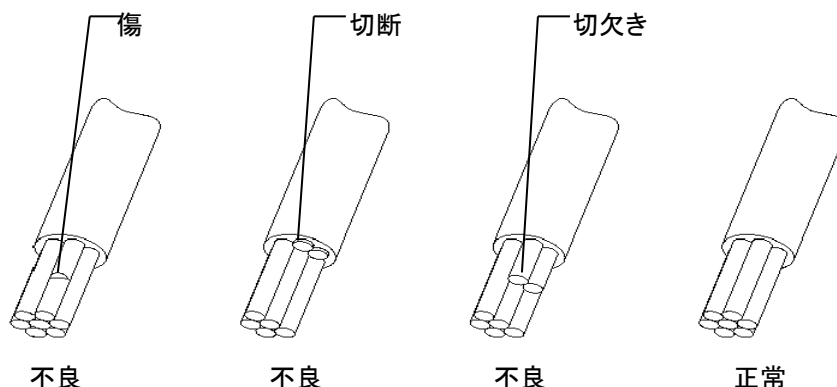


Fig.8

5.2 圧着機の手扱いについて

圧着機の手扱いについては、「AMP-3K、AMP-5K ターミネーティングマシン取扱説明書」409-10047(別冊)を参照して下さい。

5.3 圧着条件

下表の取付適用規格を、それぞれ参照願います。

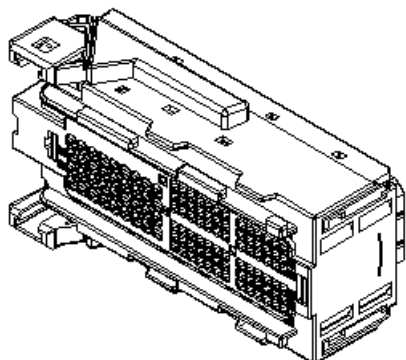
メス端子 0.50 型	114-5400-1
メス端子 1.0 型	
メス端子 1.0 型 (S)	114-5470-1
メス端子 2.8 型	114-18148

5.4 圧着端子の保管及び手扱いについて

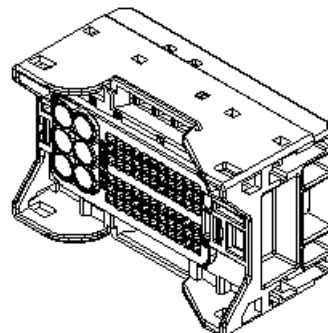
- (1)乾燥した清潔な場所に保管して下さい。また、長期間にわたり露出状態で放置することは避けて下さい。
- (2)束ねる場合は、100 本を限度とし、端子のからみ・変形のない様に十分注意して下さい。
- (3)多量に積み重ねると突起部が引っ掛り、重量のために端子が変形し、接触不良、端子保持力低下の原因となりますので、ご注意願います。

6. ハーネス製造作業

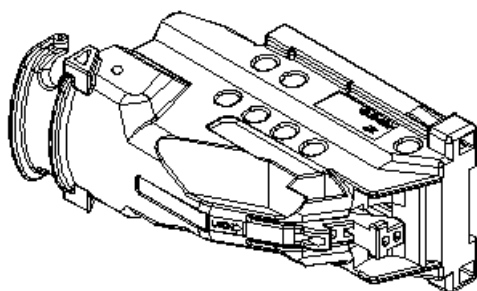
6.1 メス コネクタ及びワイヤ カバー



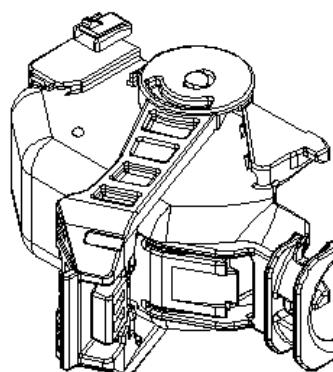
メス コネクタ 114 極



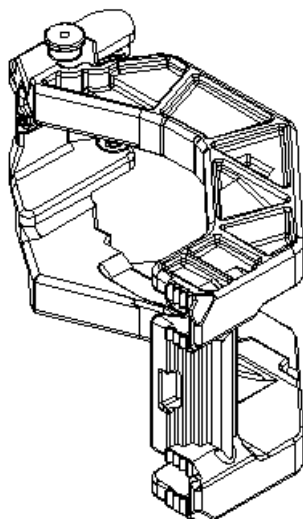
メス コネクタ 72 極



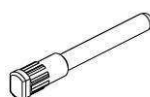
ワイヤ カバー 114 極



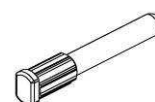
ワイヤカバー アセンブリ 72 極



レバー 114 極



キャビティプラグ 0.50 型



キャビティプラグ 1.0 型



キャビティプラグ 2.8 型

Fig.9

6.2 メス端子のメス コネクタへの挿入

- (1) リテーナが仮係止状態にあることを確認して下さい。万一、本係止状態にある場合には仮係止状態にした後に作業願います(6.3 参照)。本係止状態では端子が挿入できません。

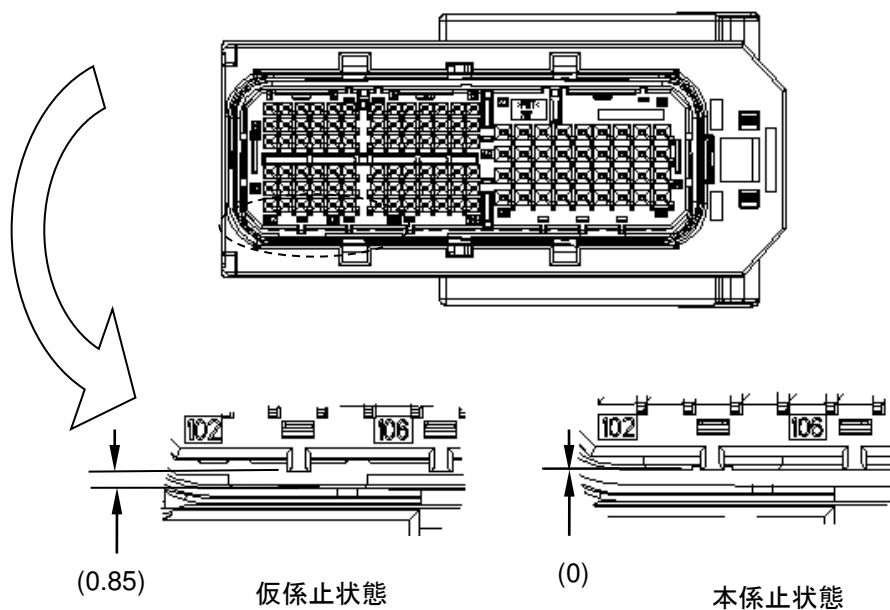


Fig.10

- (2) 端子の種類(0.50 型, 1.0 型, 2.8 型)を確認願います。
サイズはメス コネクタのキャビティ(メス端子が収納される穴)の形状によって区別します。
メス コネクタのキャビティ構成は、該当製品の図面を参照願います。

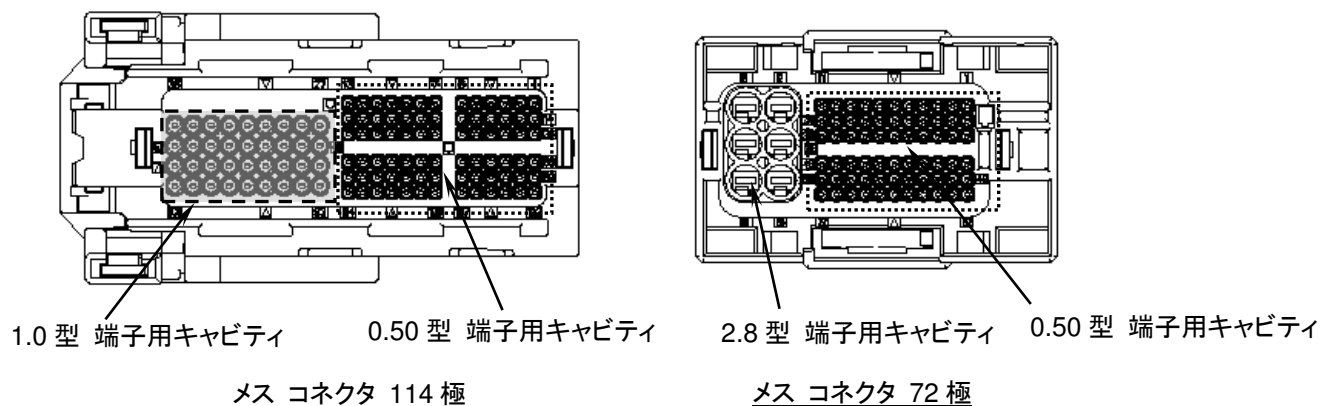


Fig.11

- (3) Fig.12 のように 114 極はレバー軸受けを『左』に、72 極は 2.8 型端子のキャビティを『左』に向けた状態で、0.5/1.0 メス端子の底面を『上』に向け、リセプタクル端子を可能な限り真っ直ぐキャビティ(穴)に挿入します。
2.8 端子は広い面が上下になるような向きで、リセプタクル端子を可能な限り真っ直ぐキャビティ(穴)に挿入します。
端子がハウジング・ランスにより係止され、それ以上挿入できなければ挿入作業は完了です。

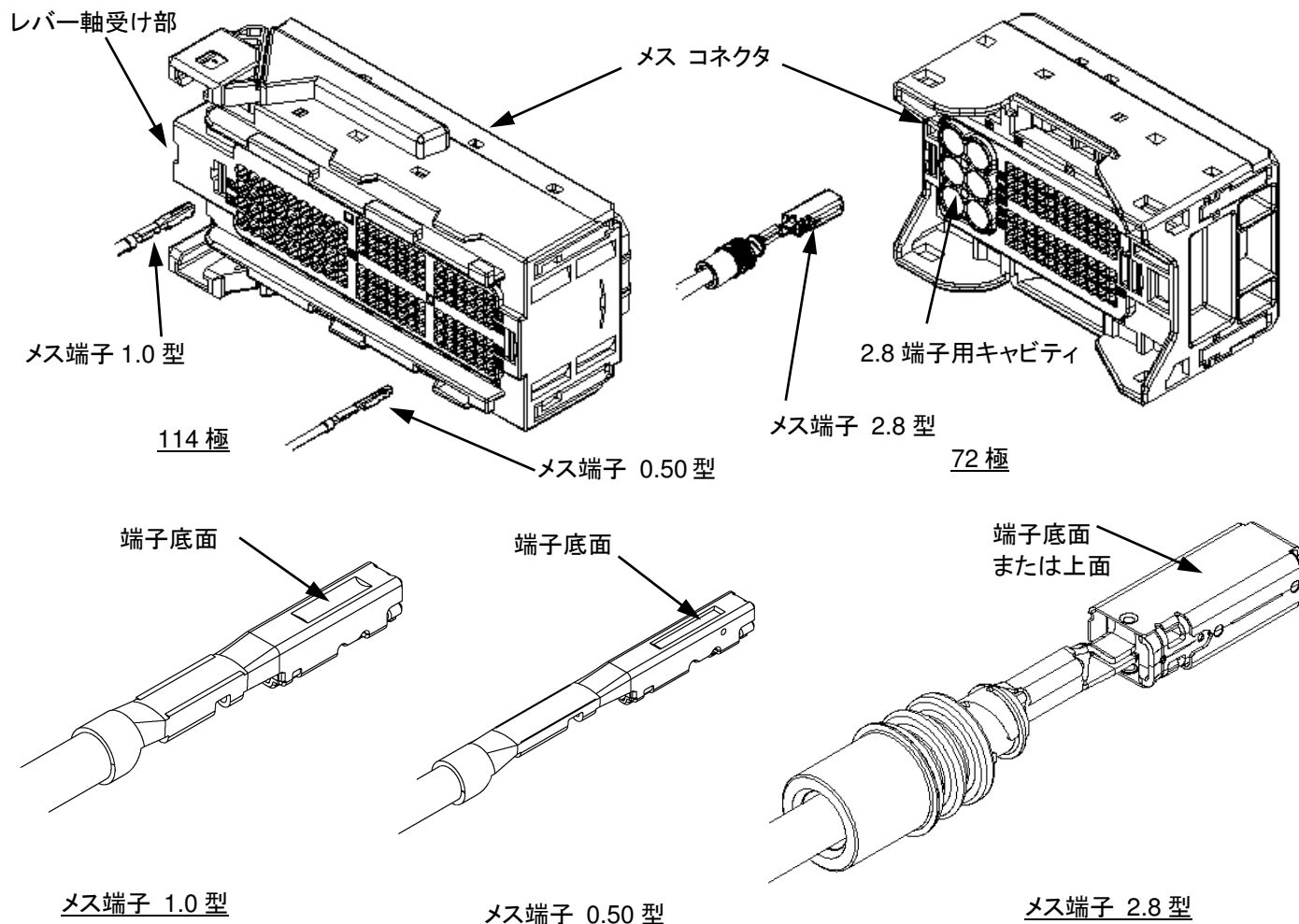


Fig.12

- 注意** 端子挿入作業は、端子を変形・電線の座屈が発生しない様に、電線の根元を持って行って下さい。
- 注意** 端子が挿入し難い場合、無理に端子を押し込まず、一度端子を抜いてリテーナの位置、端子の向きを確認し、再度端子挿入を実施して下さい。
- 注意** 挿入する端子に異物付着が無いようにして下さい。
- 注意** 挿入する電線に傷が無いようにして下さい。
- 注意** 適用端子以外は挿入しないで下さい。
- 注意** 適用電線以外は挿入しないで下さい。
- 注意** 端子を誤挿入した場合は再使用せず、新しいコネクタに交換して下さい。
- 注意** 挿入する電線に屈曲くせが無いようにして下さい。
- 注意** 2.8 型端子は 180 度反転して挿入することができます。

- (4) 電線を 15N 以下で引張り、端子が抜けないことを確認して下さい。
端子引張確認後、再度端子を軽く押込み、端子とハウジング・ランスにクリアランスが出る位置にして下さい。

6.3 リテーナ(本係止)装着作業

- (1) 所定位置に全てのメス端子挿入後、リテーナ操作穴越しにリテーナを押込み本係止状態にします。押込み後は、リテーナ外形とフロントキャビティー外形が同一ラインにある事を確認して下さい。

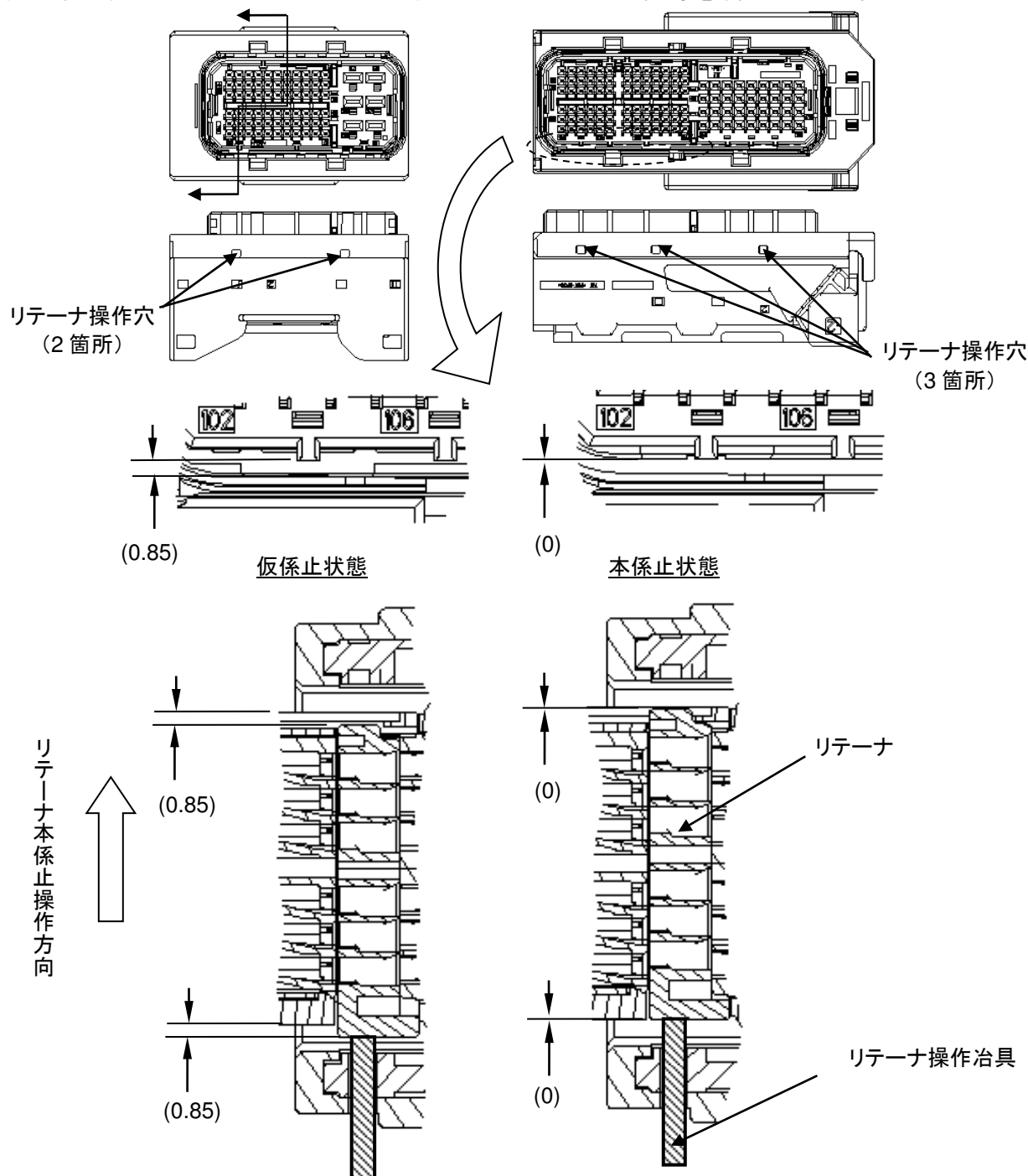


Fig.13

注意

本係止を行う場合、□2mm 以下(4 隅 C 面 0.3mm)、長さ 8mm の押し治具を使用して下さい。

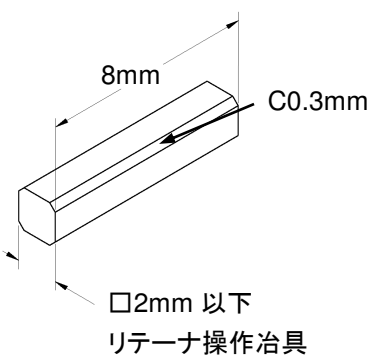
注意

リテーナを必要以上に操作しないで下さい。破損の原因になります。

注意

リテーナ操作穴が塞がっている場合、スライダの位置が正規の位置からずれている可能性がある為、スライダ位置を確認し、正規の位置に戻してから、リテーナ操作を行って下さい。

- (2) リテーナの押込みが出来ない場合には、無理に押込まず、メス端子が完全に挿入されているか確認をして下さい。(無理に押込んだ場合には、リテーナ・端子・ハウジングが破損する場合があります。)メス端子が完全に挿入されていない場合には、リテーナの押込みが出来ません。6.2 を参照し、完全にメス端子を挿入して下さい。



6.4 半装着検知に関する注意事項

6.4.1 外観によるメス端子半装着検知

- (1) リテーナ装着作業時に浮きが発生する事により、メス端子の半装着検知が可能です。

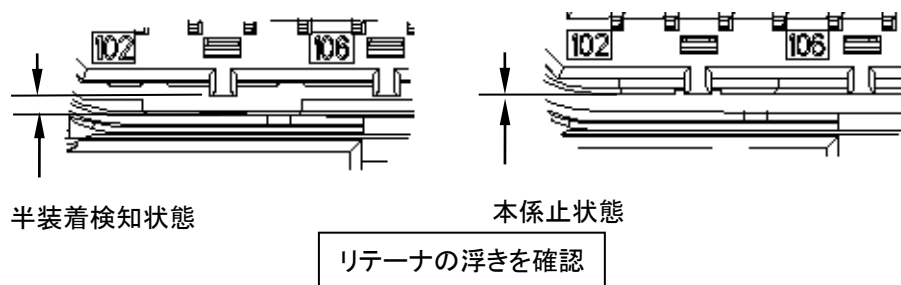


Fig.14

6.4.2 リテーナ操作荷重の増大によるメス端子半装着検知

- (1) メス端子半装着時のリテーナ操作荷重が正常時リテーナ操作荷重に対し、約 2 倍以上の荷重であり、半装着検知が可能です。

6.4.3 メス端子配列状態による半装着の防止

- (1) 周辺端子が端子未装着（空きキャビティ）状態の場合、1 次係止が掛かっている事を確認して下さい。

注意 装着端子の周辺に空きが多い事によりリテーナの逃げ・浮きが発生し、半装着を検知出来ない場合があります。必ず 1 次係止がかかっている事を確認して下さい。

注意 異常を発見した場合には、必ず新品と交換して下さい。

6.5 キャビティプラグのハウジングへの挿入(キャビティプラグを取り付ける場合のみ)

6.5.1 0.50 型、1.0 型の挿入

- (1) キャビティプラグの種類(0.50 型、1.0 型)を確認願います。

サイズはメス コネクタのキャビティ(メス端子が収納される穴)の形状によって区別します。

メス コネクタのキャビティ構成は、該当製品の図面を参照願います。

- (2) 0.50 型、1.0 型キャビティプラグをそれぞれ適合するキャビティ(穴)に挿入します。キャビティプラグがメスコネクタ端面に当たり、それ以上挿入できなければ挿入作業は終了です。

注意 注意

キャビティプラグは 0.50/1.0 サイズ共通で使用できません。

キャビティの奥までキャビティプラグを押し込み過ぎないようにして下さい。万一、入れ過ぎた場合は、プラグ・アセンブリは再使用せずに必ず交換して下さい。

キャビティプラグは一回挿入したら、抜くことはできません。誤って挿入した場合、プラグ・アセンブリは再使用せずに必ず交換してください。

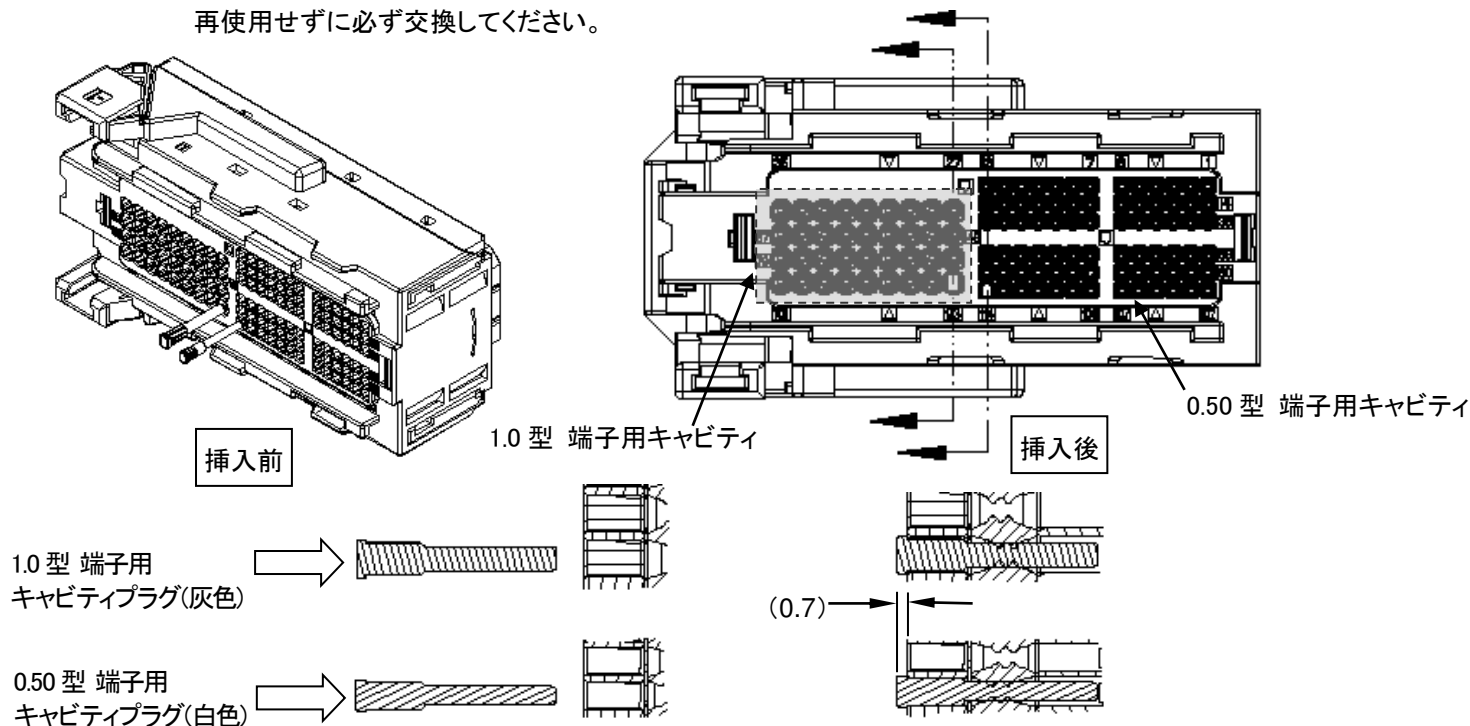


Fig.15

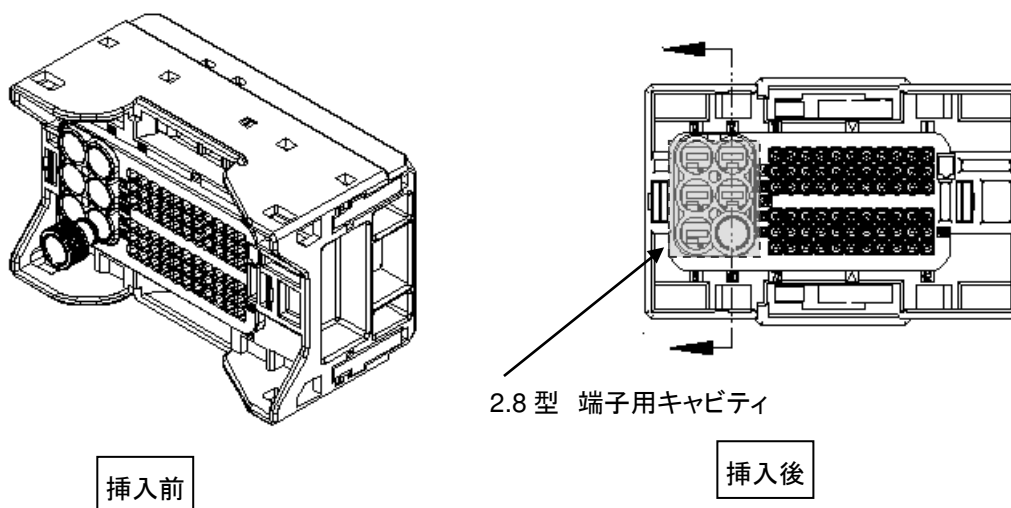
6.5.2 ・2.8 型の挿入

- (1) 2.8 型キャビティプラグを適合するキャビティ(穴)に挿入します。キャビティプラグの全てがメスコネクタに挿入されれば挿入作業は終了です。

注意

キャビティの奥までキャビティプラグを押し込み過ぎないようにして下さい。万一、入れ過ぎた場合は、プラグ・アセンブリは再使用せずに必ず交換して下さい。

キャビティプラグは一回挿入したら、抜くことはできません。誤って挿入した場合、プラグ・アセンブリは再使用せずに必ず交換してください。



2.8 型 端子用
キャビティプラグ(白色)

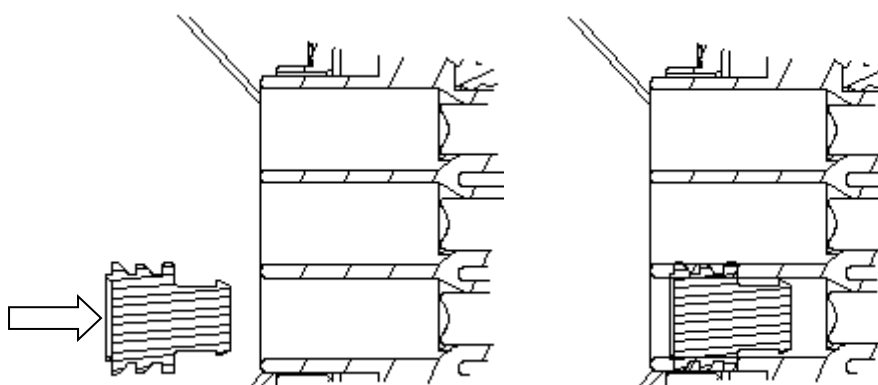


Fig.16

注意

2.8 型端子用キャビティプラグの挿入量は取付適用規格 114-18148 を参照願います。

6.6 ワイヤ カバー・レバー取り付け作業

6.6.1 ワイヤ カバー・レバー114 極の取り付け作業

(1) ワイヤ カバーのハウジングへの取り付け

ハーネス組込み作業が終了し、リテーナを装着（本係止）し終えた後ワイヤ カバーを下図の通り、メスコネクタ軸受け部反対方向から、ワイヤカバーとメスコネクタの取り付けガイドレールに位置を合わせ、ガイドレールに沿って電線を覆うようにワイヤカバーを組み立てます。ワイヤ カバーには計2ヶ所のロックが設けられており、全て掛かっていれば組立完了です。

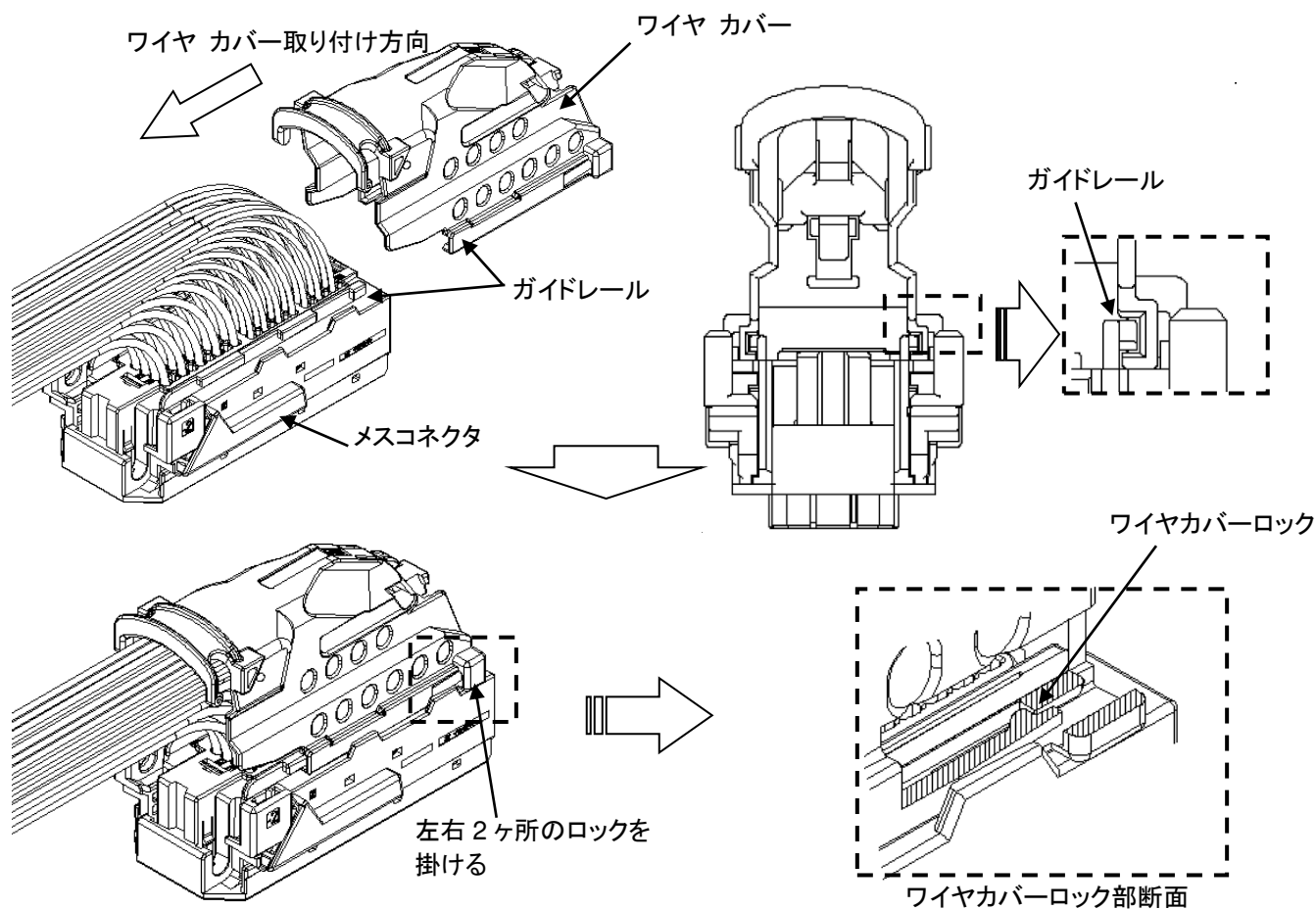


Fig.17

注意

ワイヤカバー取り付け時にワイヤを挟み込まない様注意して下さい。

(2) レバーの取り付け

ワイヤカバーを取り付けた後、下記①～②工程でレバーを装着します。

- ① レバー軸取り付け側先端を約 10mm 開き、ワイヤカバーのレバー案内テーパ部に差し込み、図示方向にレバーを押し込みます。

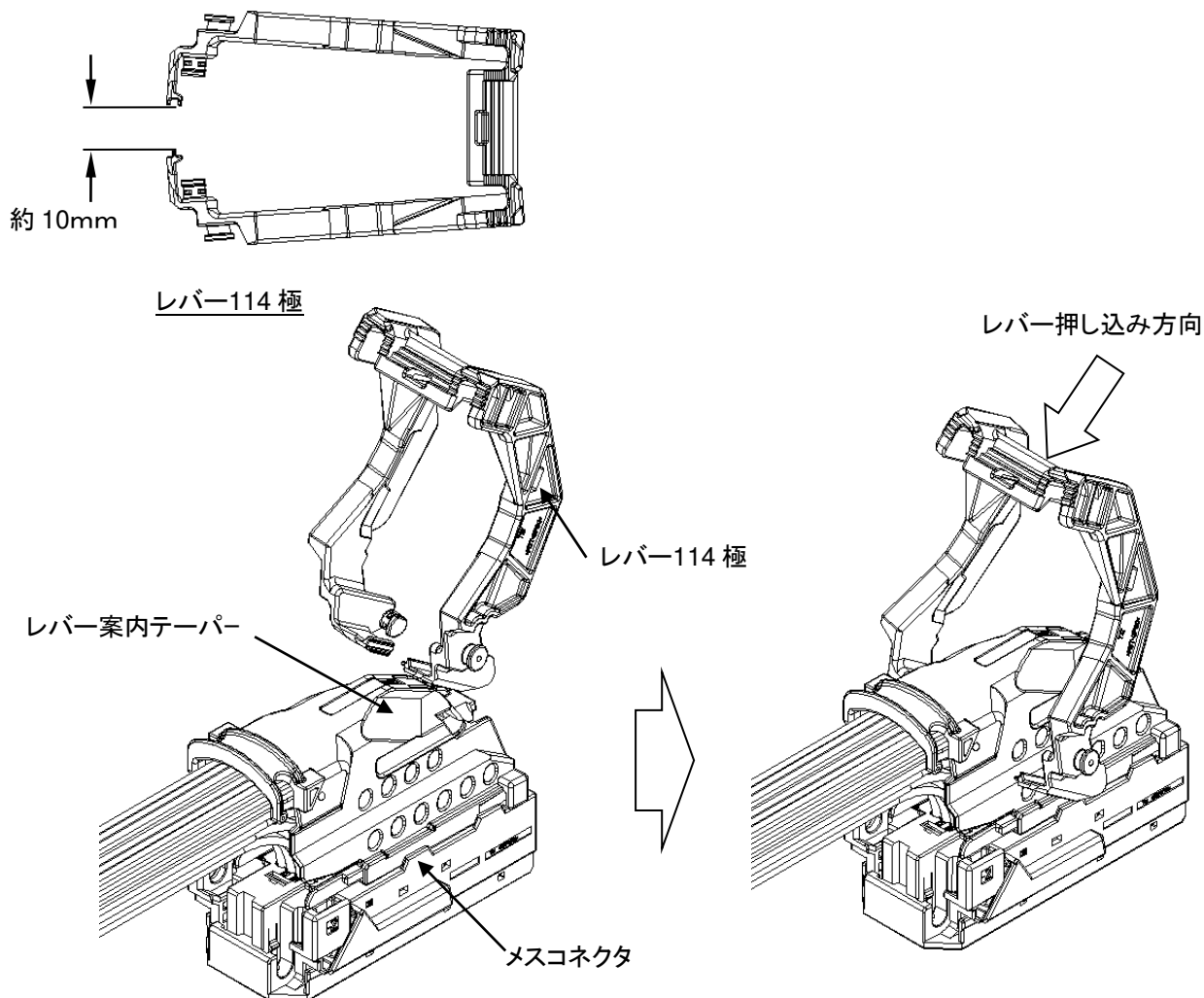


Fig.18

注意 レバー軸取り付け部先端開き時に開き過ぎるとレバーが破損する可能性があります。
必要以上にレバーを開かないで下さい。
又、レバーを開いた状態で長時間放置しないで下さい。

注意 冬場におけるレバー取付作業は、各部材を常温に戻してから取り付け作業を行って下さい。
冷え切った状態での組立作業は、部材を破損させる可能性があります。

注意 破損等異常が発生した場合には、必ず新品と交換して下さい。

注意 レバー組み付け時、レバーの開き量は最大 28mm 以下とすること。
尚、28mm 以上開いた際は、レバーが破損する恐れがある為、必ず新品と交換して下さい。

- ② レバー軸取り付け部先端がワイヤカバーを通過した後、メスコネクタのレバー軸受け部とレバー軸取り付けの位置(4箇所)を合わせ、レバー図示箇所(左右2箇所)をレバー押し込み方向に押し込みます。レバーを押し込む時、レバー操作部先端が、ワイヤカバーのレバーロックに係らない様にして下さい。レバー取付後ワイヤカバーの軸受け部ロック、レバーロックに係っている事を確認して下さい。

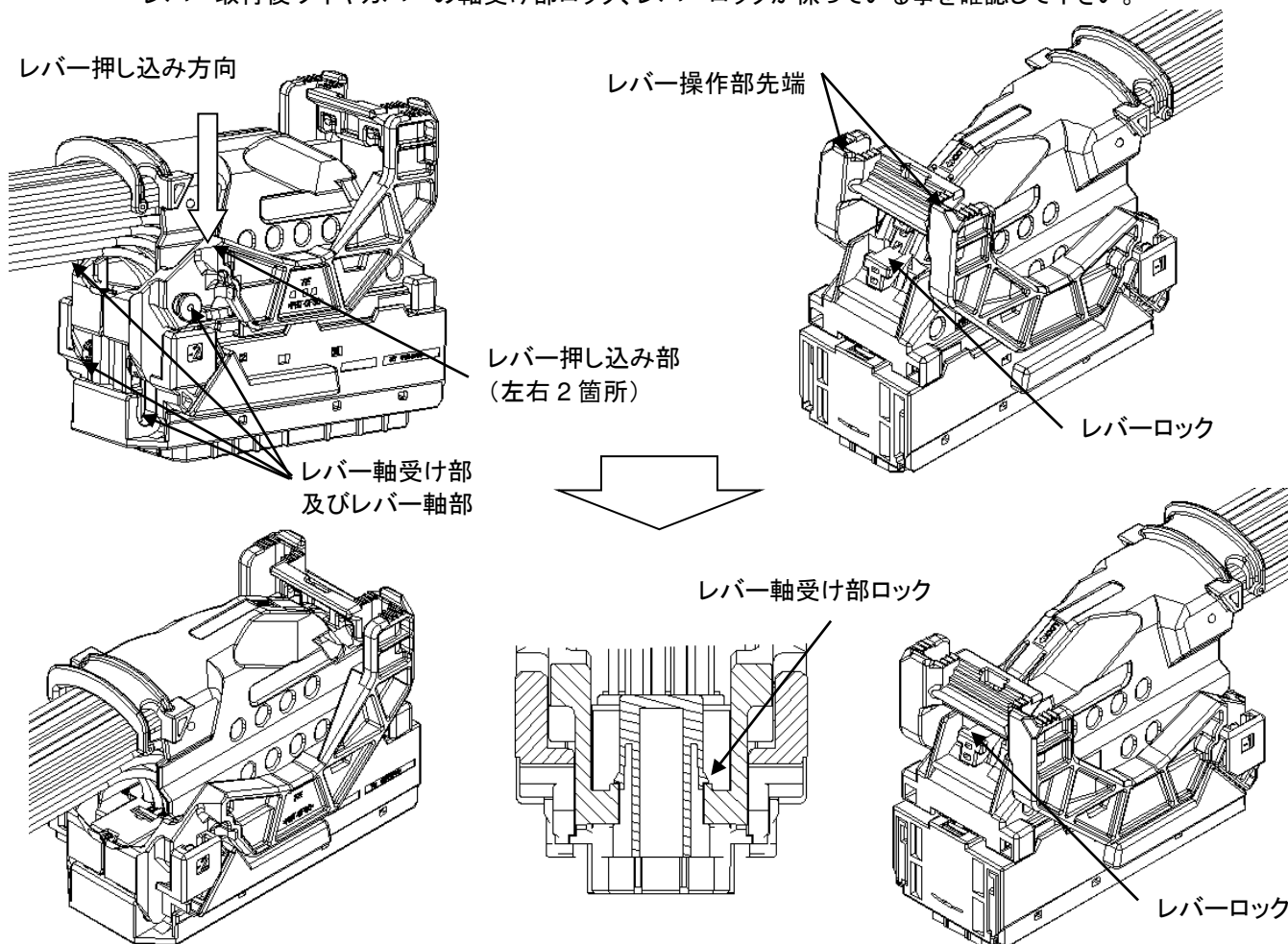


Fig.19

注意

レバー取り付け時に取り付け力が著しく高い場合は、レバーを無理に押し込まず、①取付位置ズレ、②レバーロック係り、③レバー軸取り付け部先端の合わせ位置ズレ、④ワイヤの噛み込み等の確認を行って下さい。

6.6.2 ワイヤ カバー 72 極取り付け作業

ハーネス組込み作業が終了し、リテーナを装着（本係止）し終わったらメスコネクタのスライダ位置、ワイヤ カバーのレバーロック位置が正規の位置にある事を確認した後、下記①～②の工程でメス コネクタへ取り付けします。

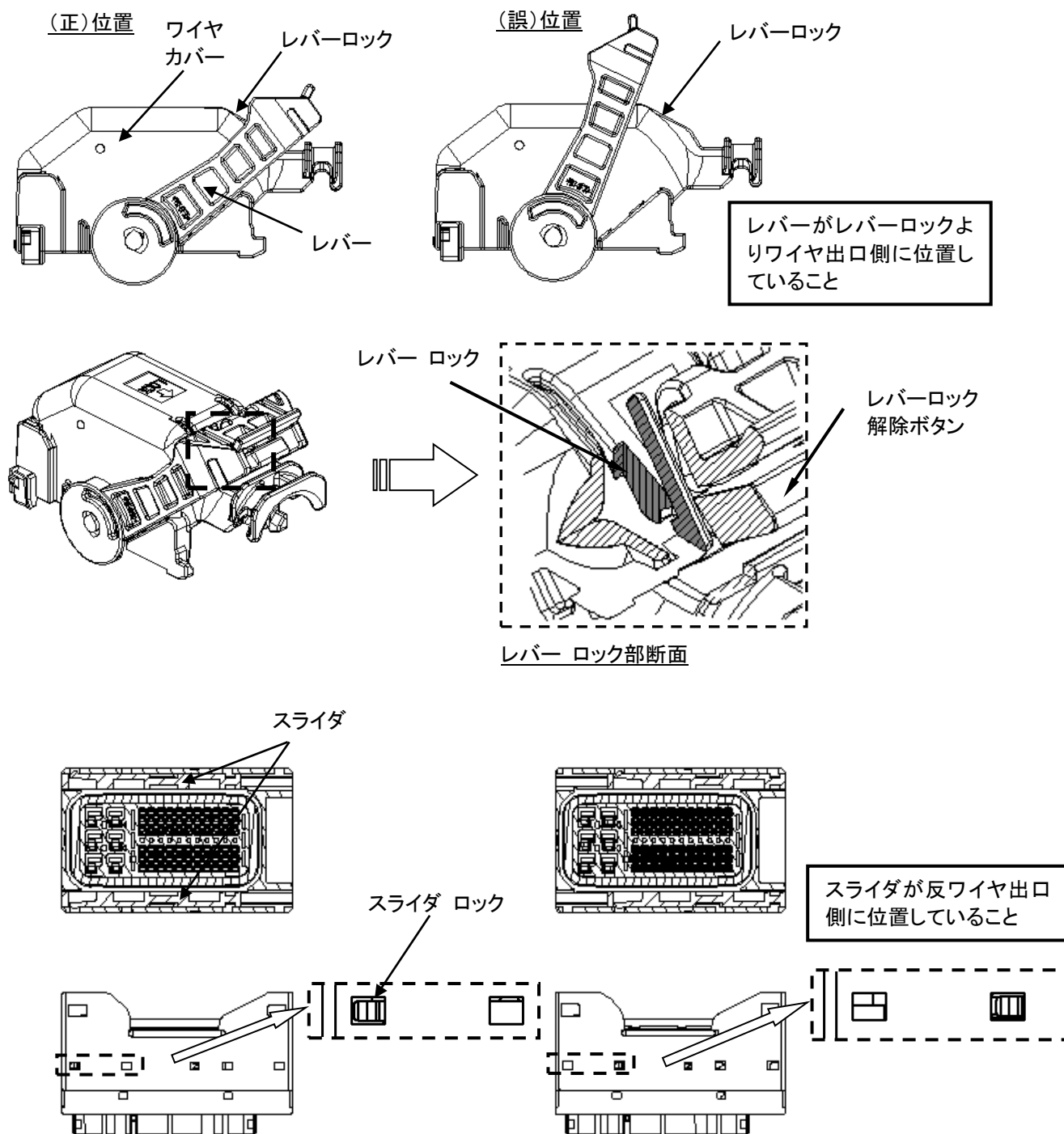


Fig.20

- ① ワイヤ カバーをワイヤ出口側に傾けて、不変位ロック 2 ヶ所をメス コネクタに引っ掛けて下さい。

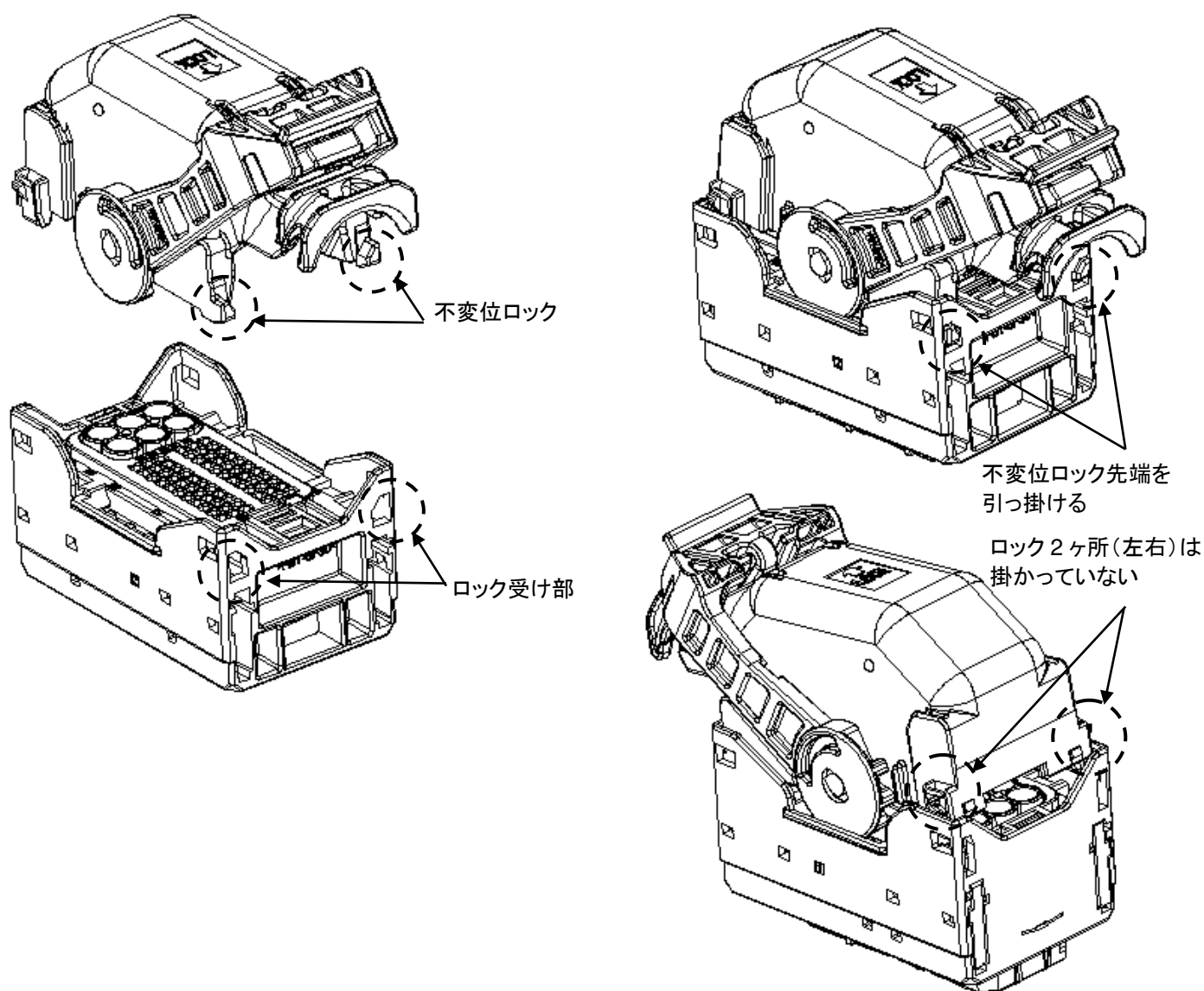


Fig.21

注意

ワイヤカバー取り付け時にワイヤを挟み込まない様注意して下さい。

- ② ワイヤ カバーの不変位ロック先端をメスコネクタ不変位ロック受け部に引っ掛けながら、矢印の方向へ押し込み、ワイヤカバーの取り付けを行って下さい。
この時、ワイヤを挟み込まないように注意して下さい。
ワイヤ カバーのロックが下図の通り、メス コネクタにカバーのロックが嵌まり込めばワイヤ カバーの取り付けが完了です。
取り付け作業後、左右のロックに係っている事を確認して下さい。

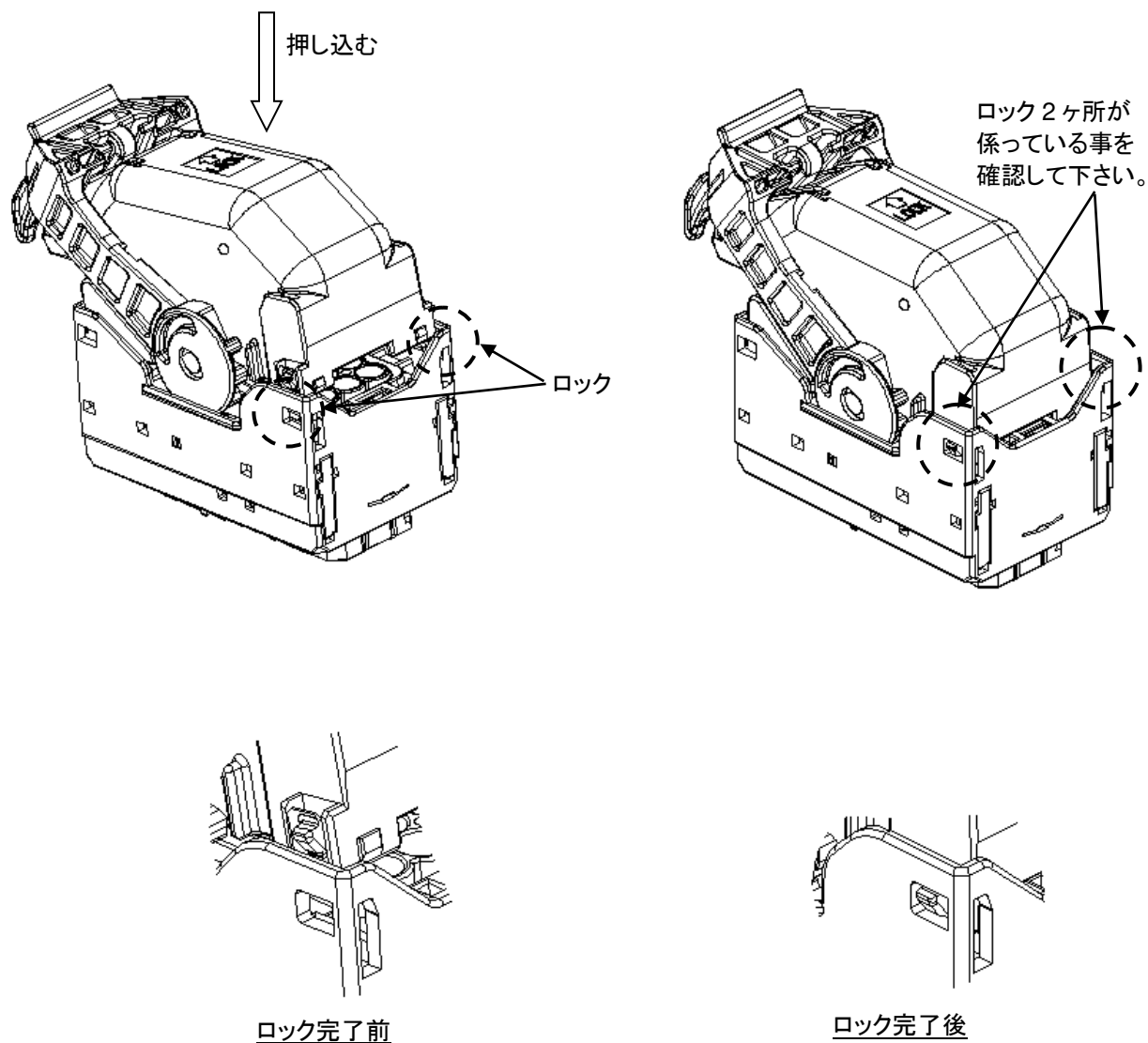


Fig.22

6.7 レバー114 極 取り外し作業

(1) レバーの固定を解除する

①レバーロックを解除し、②レバーを軽く引き上げる。③レバー軸ロックを外し、レバーの固定を行い、④レバー本体を上方に引き上げる。

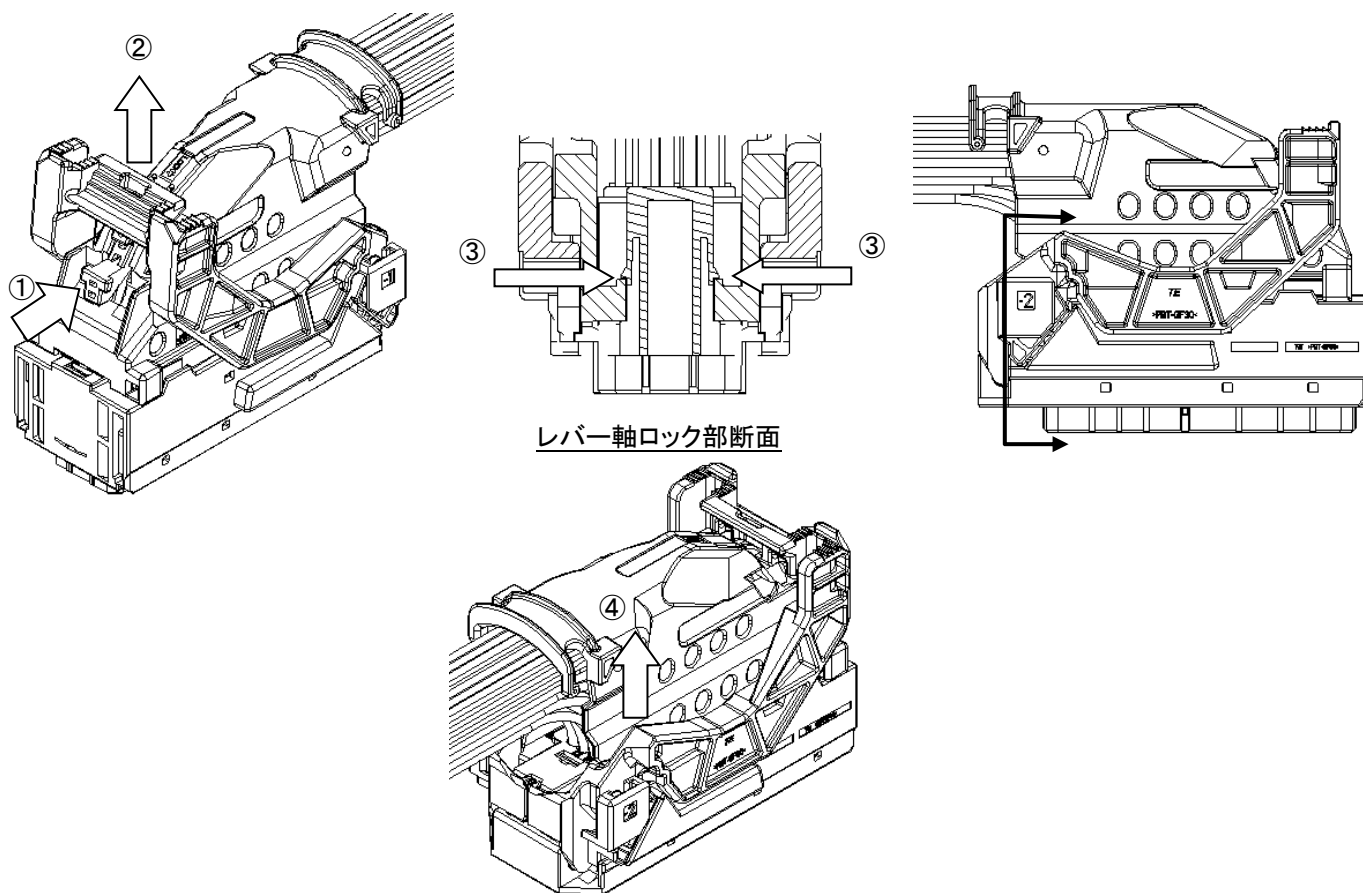


Fig.23

(2) レバーを取り外す

レバーをワイヤカバーのワイヤ出口側外周に沿って引き上げ、ワイヤカバー出口を通過させます。
レバーを取り外した後、スライダを正規の位置に押し込んで下さい。

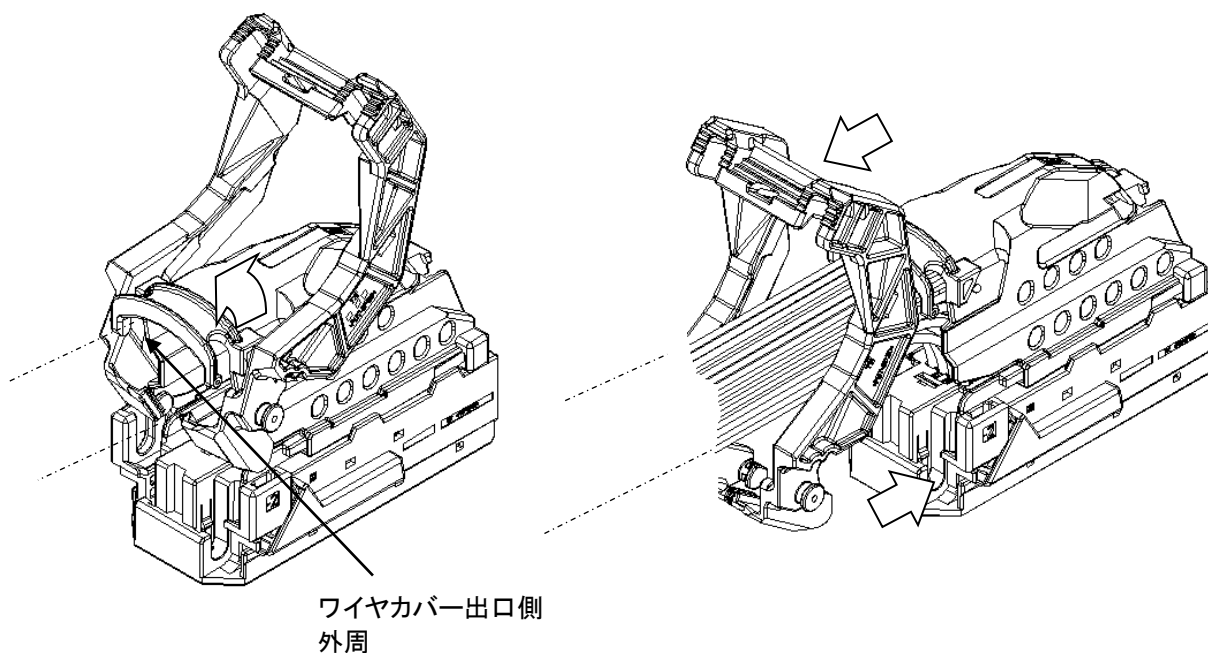


Fig.24

注意

レバー取り外し時にレバー軸側先端を開き過ぎるとレバーが破損する可能性があります。
必要以上にレバーを開かないで下さい。
又、レバーを開いた状態で長時間放置しないで下さい。

(3) レバーを再取り付け

一度外したレバーは、7.1.1 (2)項の逆手順でワイヤカバーを通過し、6.6.1 (2)②項に基づいて、レバーをメスコネクタ本体に取り付けて下さい。

6.8 ワイヤ カバー取り外し作業

6.8.1 ワイヤ カバー 114 極の取り外し作業

ワイヤ カバーの後方から 1mm の精密ドライバを挿入してロックを解除しながら、電線出口と反対方向へスライドさせて下さい。ワイヤ カバーのロックは左右 2 ヶ所を解除します。

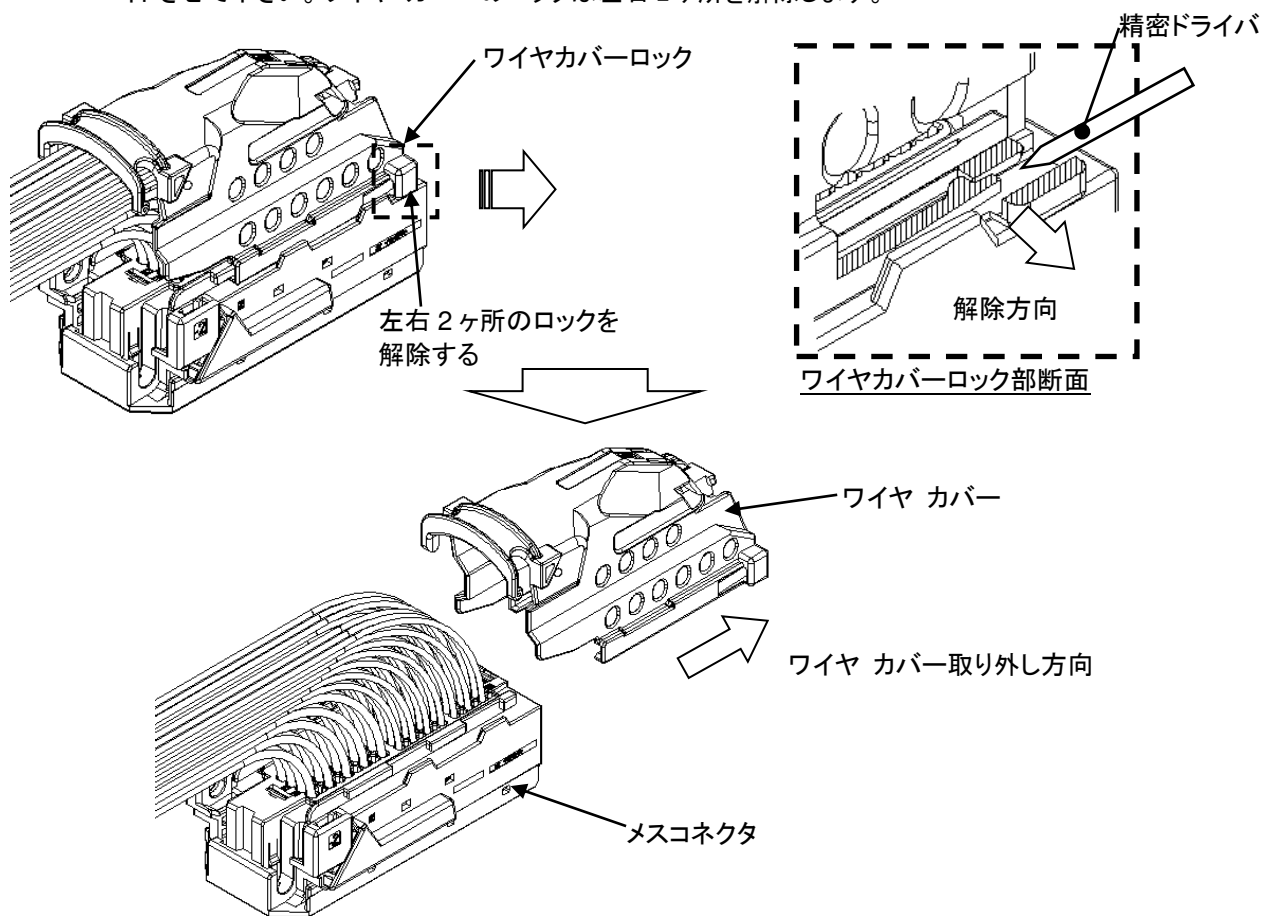


Fig.25

注意

無理なロック解除は行わないで下さい。

6.8.2 ワイヤ カバー 72 極の取り外し作業

- ① ワイヤ カバーの取り外しは、ワイヤ カバーの電線出口側を下へ押しながら、カバーの左右ロック 2 ヶ所を矢印の方向へ押しロックを解除して下さい。

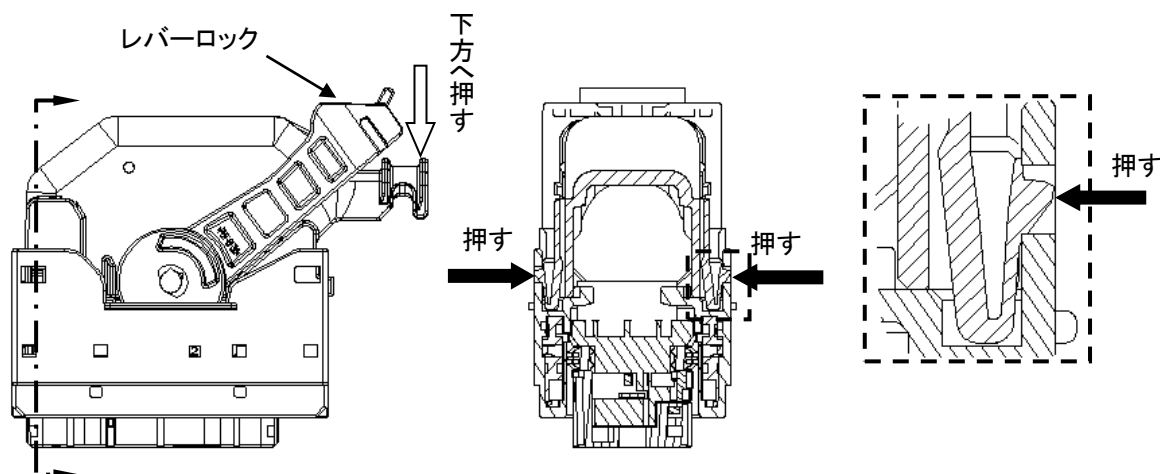


Fig.26

注意 注意

無理なロック解除は行わないで下さい。

レバーロックが掛かった状態で、ワイヤカバー取り外し作業を行って下さい。
プリセット状態で作業を行うと、コネクタを破損させる恐れがあります。

- ② ワイヤ カバーのロックを解除し、メス コネクタから抜けたら不変ロック 2 ヶ所が引っかからない様に矢印の方向へ回転させながら、不変ロック 2 ヶ所が外れるまで回し、抜いて下さい。

回転させながら
引き抜いて下さい

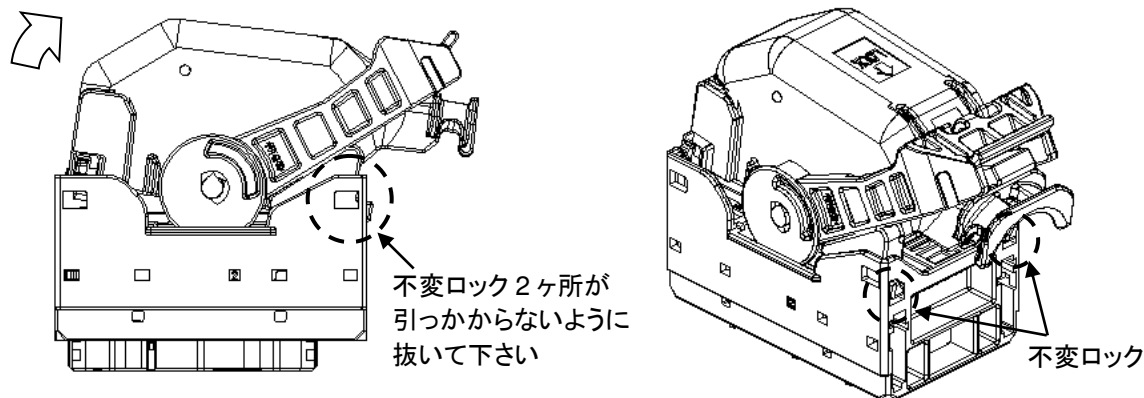


Fig.27

6.9 リテーナの解除方法

リセプタクル端子の挿入・引抜き時には、リテーナが仮係止状態にあるか確認して下さい。

本係止状態では、挿入・引抜き作業はできません、下記順序に従いリテーナを仮係止状態に戻してから、実施して下さい。

- (1) リテーナ操作穴越しにリテーナを押込み仮係止状態にします。

リテーナを仮係止状態まで(約 0.85mm)操作し、係止部のつめが解除されたことを確認して下さい。

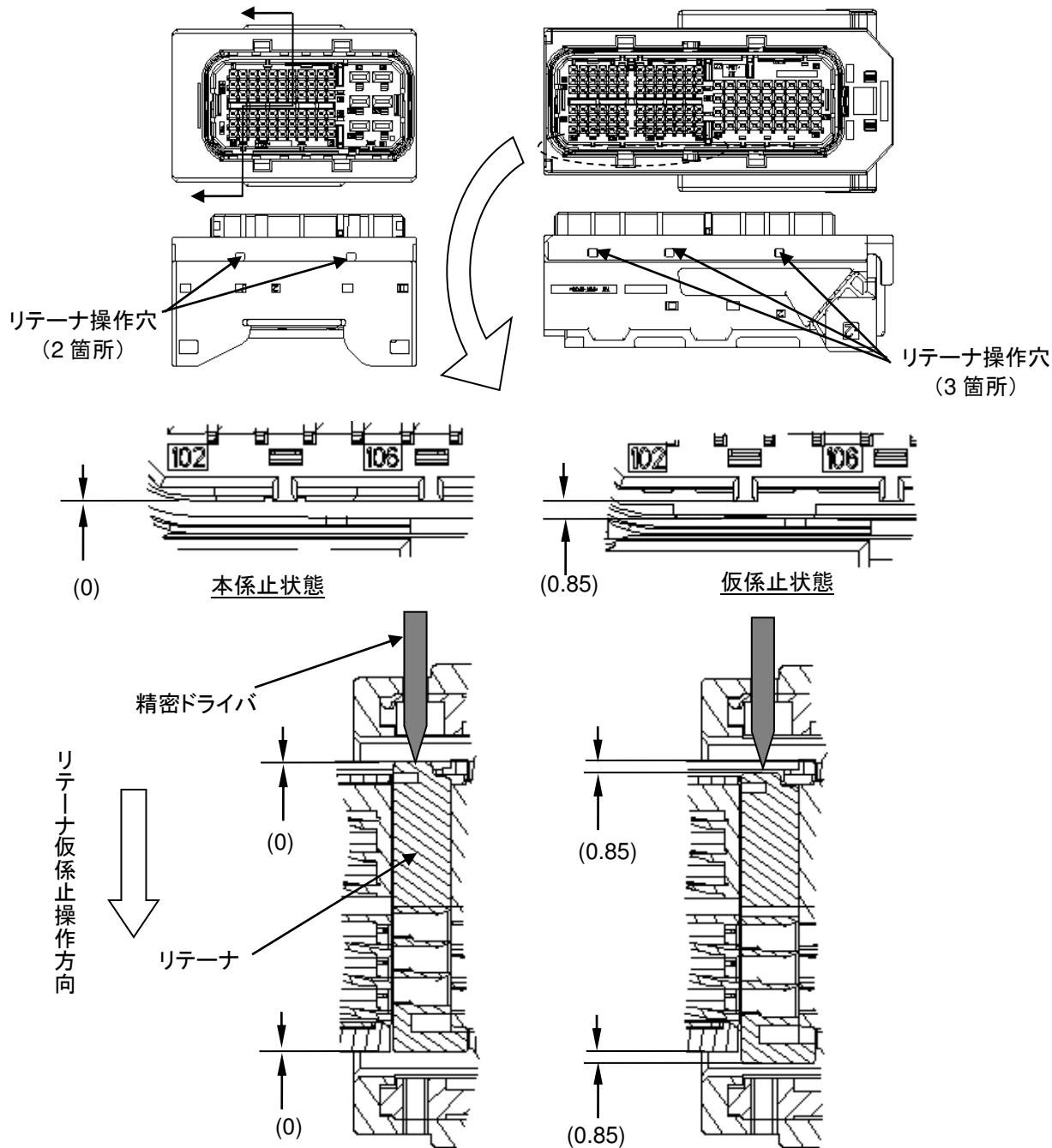


Fig.28

注意
注意
注意

仮係止にする場合、1.8mm の精密ドライバを使用して下さい。

リテーナを必要以上に操作しないで下さい。破損の原因になります。

リテーナ操作穴が塞がっている場合、スライダの位置が正規の位置からずれている可能性がある為、スライダ位置を確認し、正規の位置に戻してから、リテーナ操作を行って下さい。

注意

治具挿入部以外にドライバを差し込まないで下さい。

端子変形や防水用ゴム破損の原因となります。

6.10 メス端子の引抜き方法

- (1) リテーナが仮係止状態になっていることを確認します。
本係止状態になっている場合には、6.11 を参照し仮係止状態にして下さい。
本係止状態では、端子の引抜きはできません

(2) メス端子 0.50 型、1.0 型引き抜き方法 (共通)

- ① メス端子を軽く押し込みます。
- ② 専用の抜き治具を、所定の穴へ突き当て部がメス コネクタに当たるまで挿入します。
- ③ 抜き治具を挿入した状態で、電線を引っ張り、端子を引抜きます。

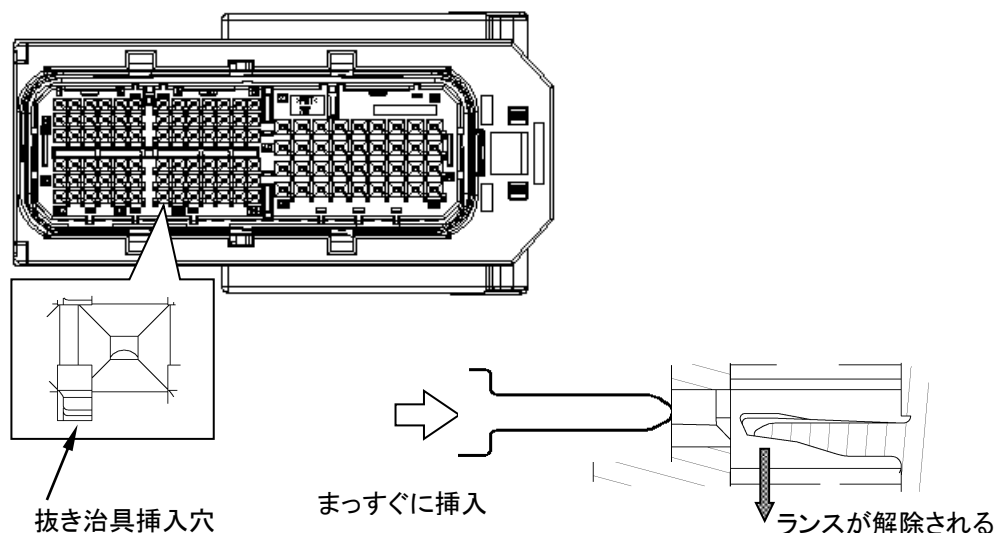


Fig.29

(3) メス端子 2.8 型引き抜き方法

- ① メス端子を軽く押し込みます。
- ② 1.4mm の精密ドライバを所定の穴へ突き当て、ランスを斜めに倒します。
- ③ ランスを倒した状態で電線を引っ張り、端子を引抜きます。

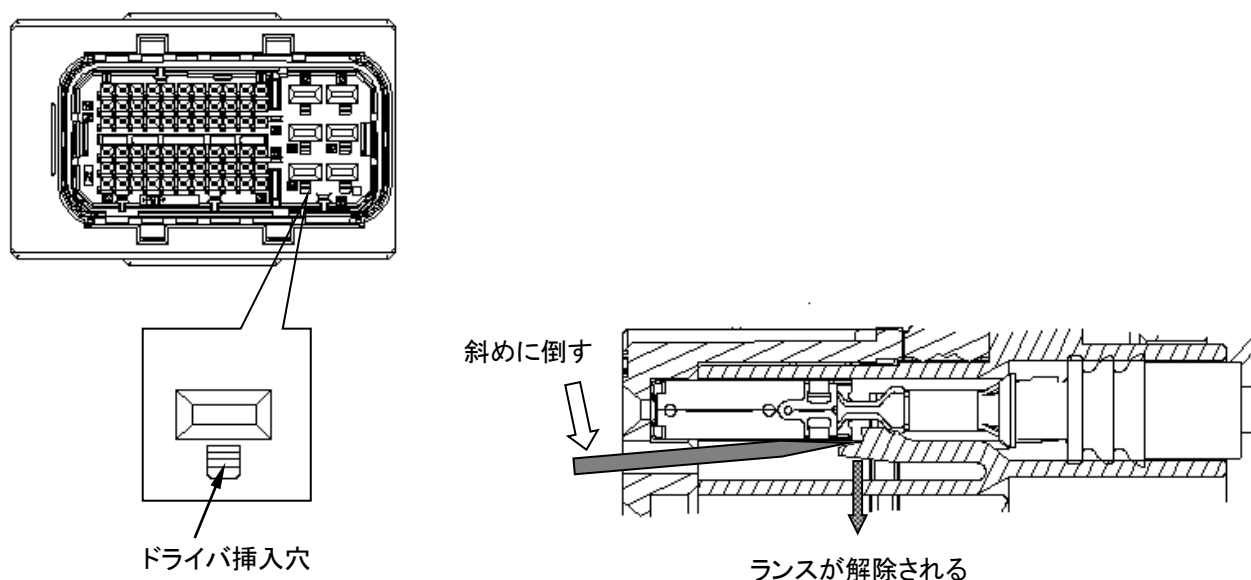


Fig.30

注意

端子が引抜けない場合には、治具を一旦抜き、電線を持ちながら端子を奥へ押込み、再び治具を挿入して下さい。

無理に治具をこじると、治具の変形・端子ランスの変形による端子保持力低下の原因となります。

また、引抜き作業は3回以上繰り返さないで下さい。端子保持力が低下します。

端子用抜き治具をリテーナの解除に使用しないで下さい。破損します。

注意

端子が抜けない場合には、無理に抜かず、ランスが確実に解除されているかを、確認して下さい。

注意

接触部の変形等が発生する為、抜き治具やドライバを、メス端子内部に挿入しないよう注意して下さい。万一、挿入してしまった場合には、新品のメス端子と交換して下さい。

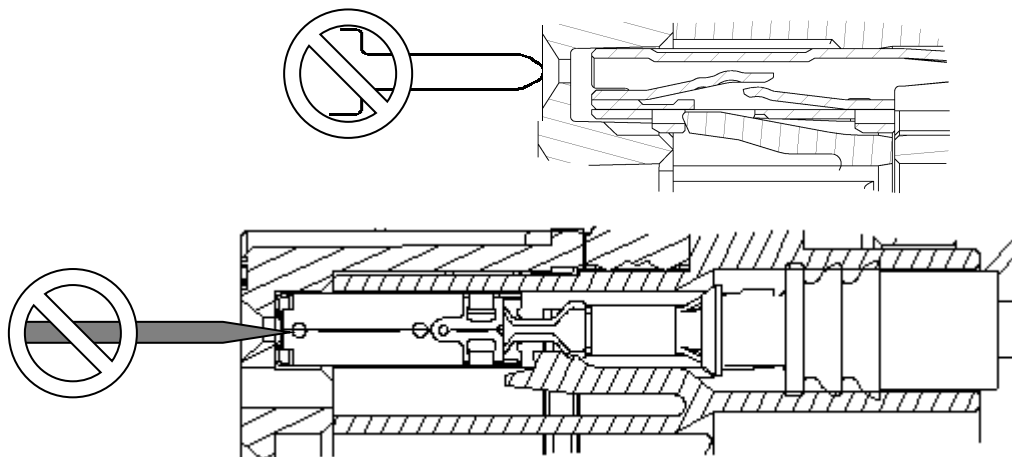


Fig.31

6.11 ハーネス製品の管理

6.11.1 取扱いについて

コネクタや電線に無理な力を加えたり、衝撃を与えたりしないように十分注意して下さい。

6.11.2 電線の結束やテーピングについて

テーピングの位置は、ワイヤカバー内部からテーピングを行って下さい。

又、電線に無理な力が掛からないように注意して下さい。

6.11.3 導通検査について

(1)導通検査に使用する治具は、相手側コネクタもしくは、同等の物を使用願います。

(2)メス端子内部に、検査用プローブを絶対に挿入しないで下さい。

注意 検査用プローブを挿入してしまった場合には、必ず新品のメス端子と交換して下さい。

6.11.4 保管について

乾燥した清潔な場所に保管して下さい。また、露出状態での長時間放置は避けて下さい。

6.11.5 出荷・運搬について

適正な梱包箱を利用し、塵埃・雨水等を避け、丁寧な取扱いを願います。

6.11.6 ハーネス結束バンドについて

メスコネクタとハーネスを結束バンドで固定する場合、結束部をコネクタ嵌合面側で行って下さい。

注意 72 極側において結束部がコネクタ上面にあるとレバー操作時に干渉し、レバー操作を行い難くなる場合があります。

7. コネクタの嵌合及び引抜き作業

7.1 コネクタの嵌合

7.1.1 72 極側

(1) レバー72 極プリセット作業

- メスコネクタ 72 極の①レバーロックを解除し、②レバーを開きプリセット状態にします。

ワイヤカバーに付いているレバーロック解除ボタンを①の方向に押しながら、レバーを②の方向に回転させて下さい。

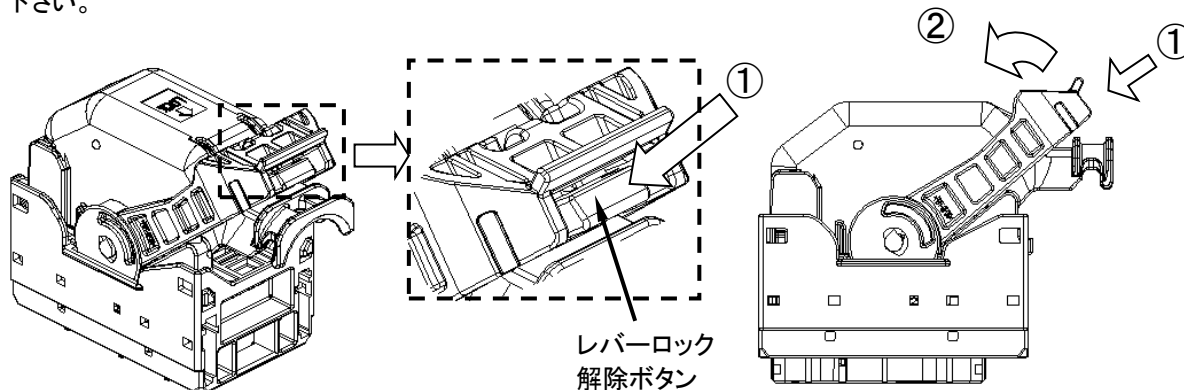


Fig.32

- レバーをレバープリセット位置にセットする
レバーを回転させて、『カッチ』と音がする(レバーがディテントロックを通過する位置)まで回転させると、レバープリセットの完了です。

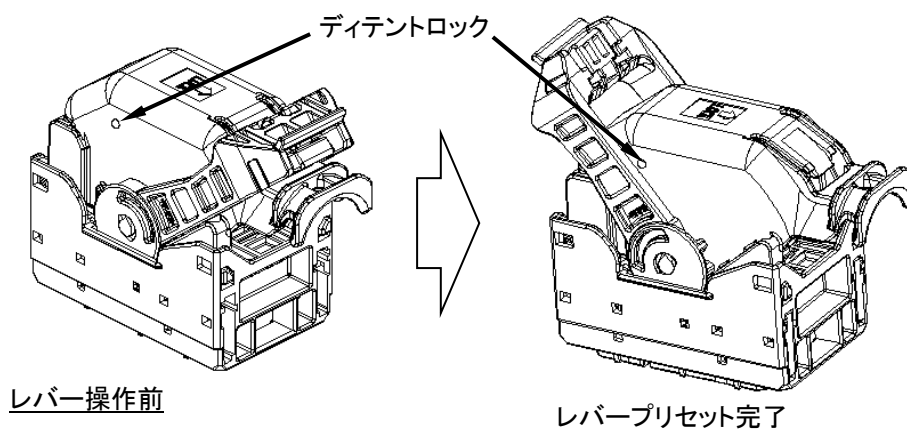


Fig.33

注意
注意
注意
注意

無理にレバーロックを押さないよう注意して下さい。
異常を発見した場合には、必ず新品と交換して下さい。
レバーロックを解除していない状態でレバーを引き上げた場合、コネクタを破損させる可能性があります。
必要以上にレバーを回転させると、コネクタを破損させる可能性がある為、必要以上にレバーを回転させないで下さい。

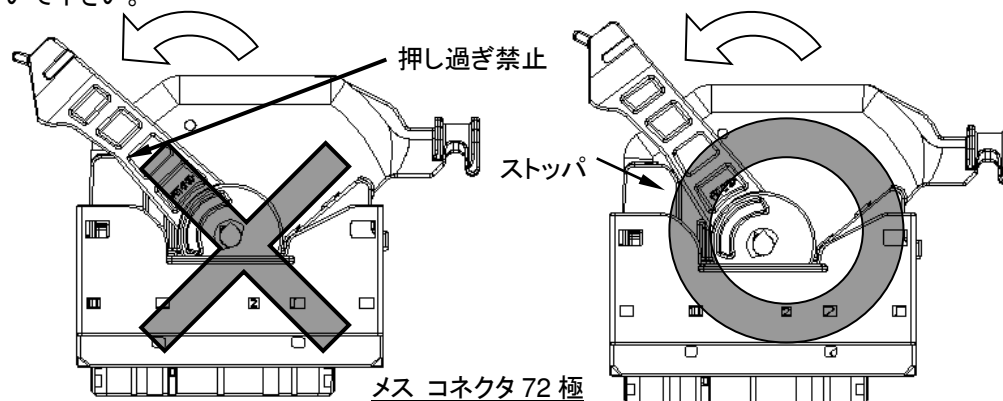


Fig.34

- (2) メスコネクタ72極(レバープリセット状態)をオス コネクタのボスとメス コネクタのスロット位置を合わせ、①の方向に強いクリック感があつた後、真直ぐ停止するまで押し込んで下さい。

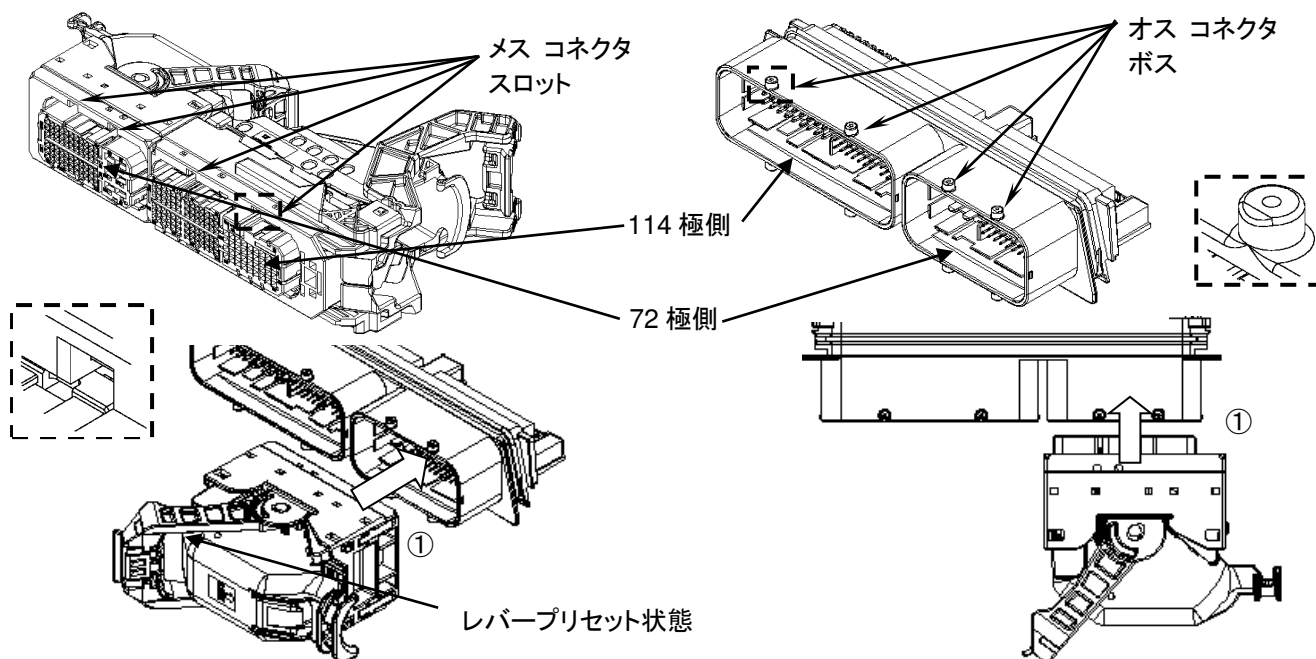


Fig.35

- 注意** 端子のハウジングへの装着状態・電線の束ね位置・リテーナが本係止状態にあるかを確認して下さい。
リテーナが仮係止状態にある場合には、6 項を参照し、本係止状態にして下さい。
- 注意** 異常を発見した場合には、必ず新品と交換して下さい。
(端子の変形・変色・傷・錆、ハウジングの変形・割れ・欠損・変色等)
- 注意** オス・コネクタ ボスとスライダが嵌っている事を確認してからレバーを嵌合方向に操作して下さい。
- 注意** 挿入時には、絶対にコネクタをこじらない(挿入方向以外に力を加えない)ように、注意して下さい。

- (3) 停止位置でレバーを②の方向に回転させて下さい。

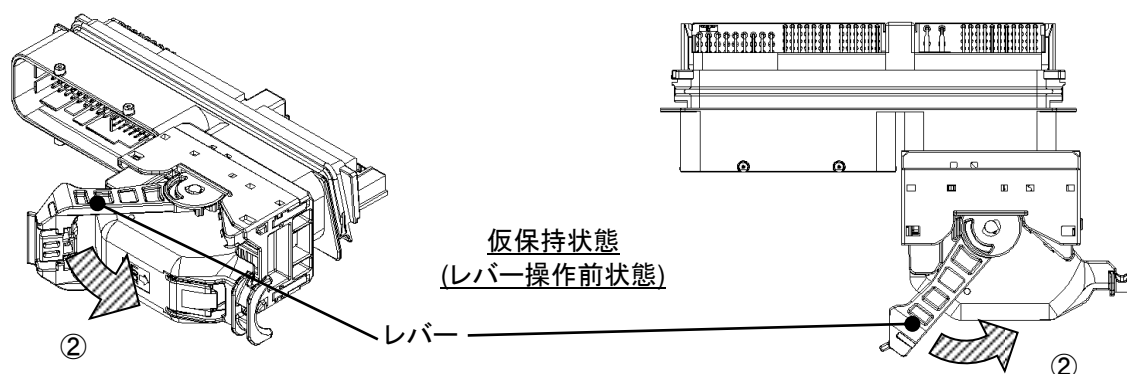


Fig.36

- 注意** レバー回転時に、電線を噛み込まないで下さい。

- (4) レバーを矢印の方向へ倒し、「パチン」と音がしてそれ以上押込むことが出来なければ嵌合は完了です。
挿入出来ない場合には、無理に押込まず(1)、(2)の項目を再度確認して下さい。

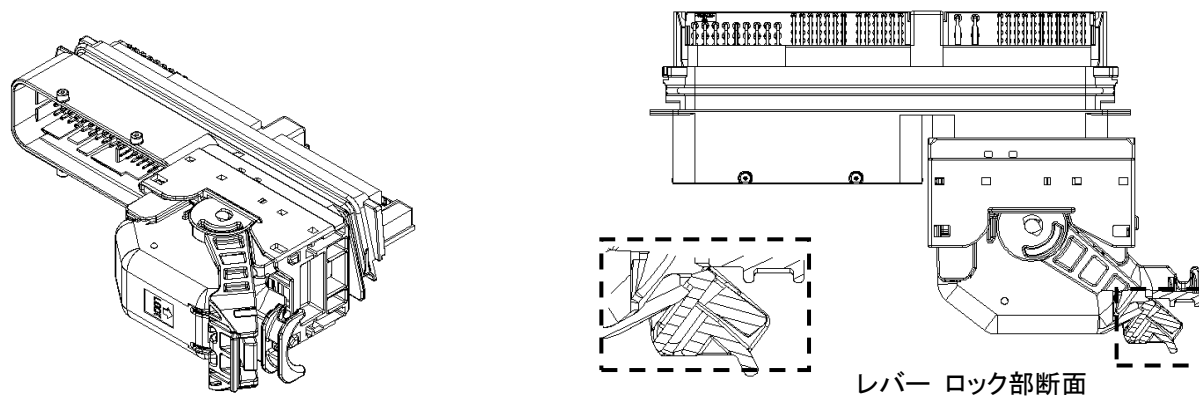


Fig.37

注意
注意
注意

レバー操作完了後に、レバーがレバーロックに係っている事を確認して下さい。
レバー操作時に異常を感じたら無理に嵌合させないで、レバーを一度戻してから再操作を行って下さい。
メス コネクタを軽く引張り、メス コネクタが抜けないことを確認して下さい。

7.1.2 114 極側

- (1) メスコネクタ 114 極の①レバーロックを解除し、②レバーを開きプリセット状態にします。

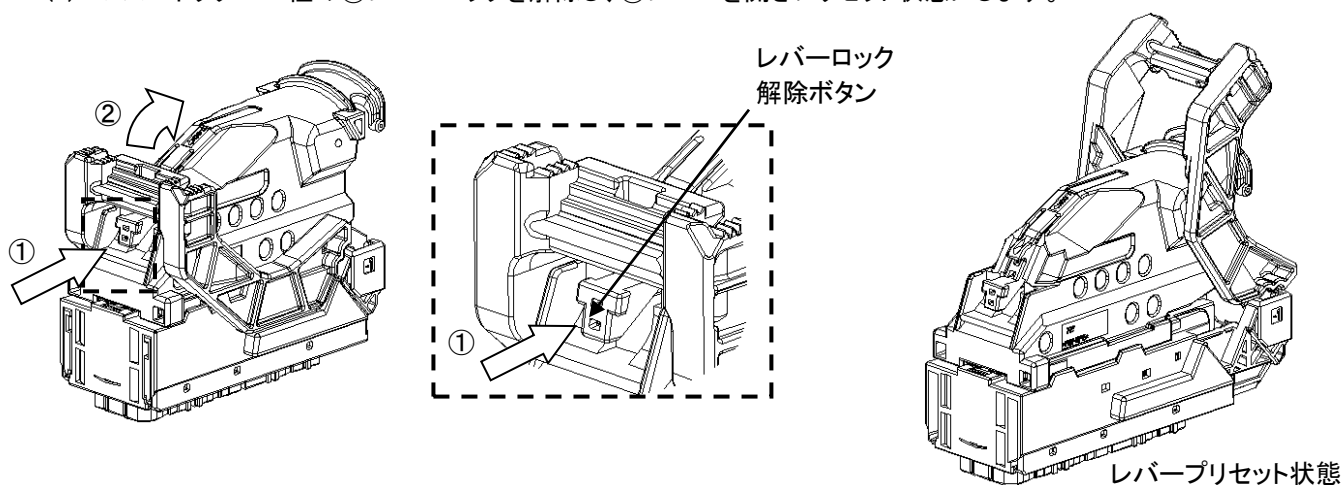


Fig.38

注意

レバープリセットは、ディテントロックが隠れるまでレバーを引き上げてください。

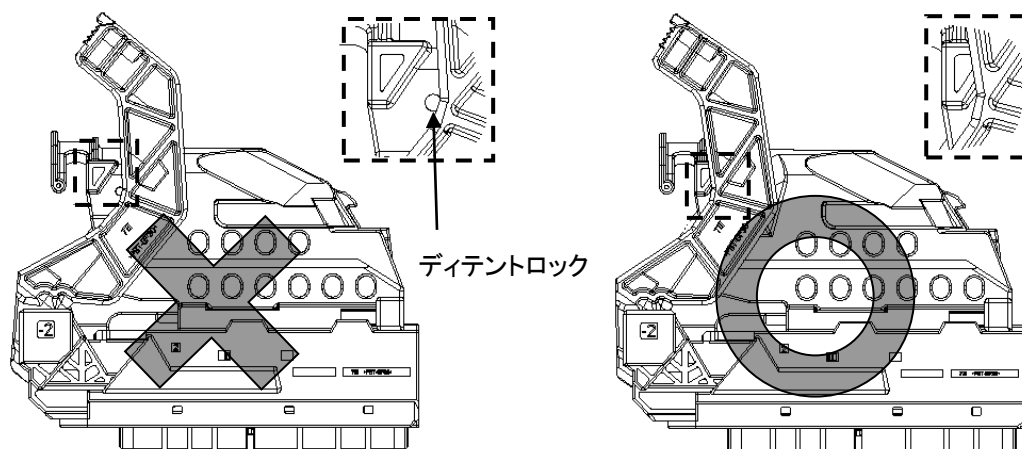


Fig.39

注意

必要以上にレバーを回転させると、コネクタが破損する可能性がある為、必要以上にレバーを回転させないで下さい。

- (2) メスコネクタ 114 極 (レバープリセット状態) をオス コネクタのボスとメス コネクタのスロット位置を合わせ、①の方向に強いクリック感があつた後、真直ぐ停止するまで押し込んで下さい。

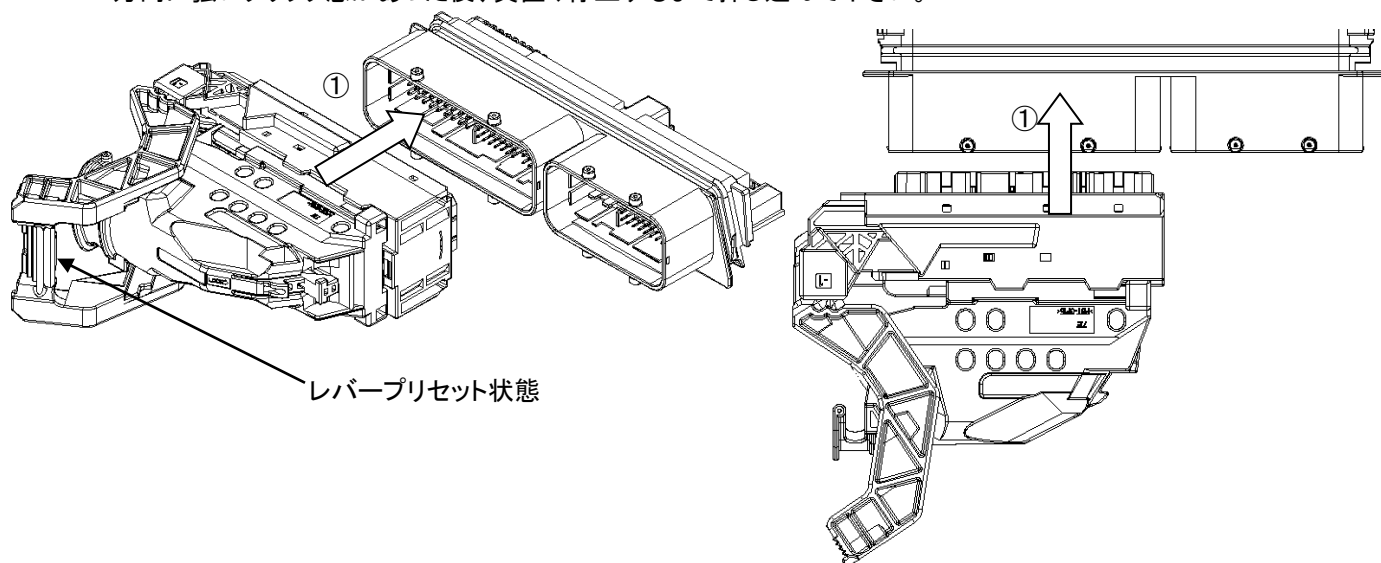


Fig.40

注意 端子のハウジングへの装着状態・電線の束ね位置・リテーナが本係止状態にあるかを確認して下さい。
リテーナが仮係止状態にある場合には、6 項を参照し、本係止状態にして下さい。

注意 異常を発見した場合には、必ず新品と交換して下さい。
(端子の変形・変色・傷・錆、ハウジングの変形・割れ・欠損・変色等)

注意 オス・コネクタ ボスとスライダが嵌っている事を確認してからレバーを嵌合方向に操作して下さい。

注意 挿入時には、絶対にコネクタをこじらない(挿入方向以外に力を加えない)ように、注意して下さい。

- (3)停止位置で②の方向にレバーを回転させて下さい。

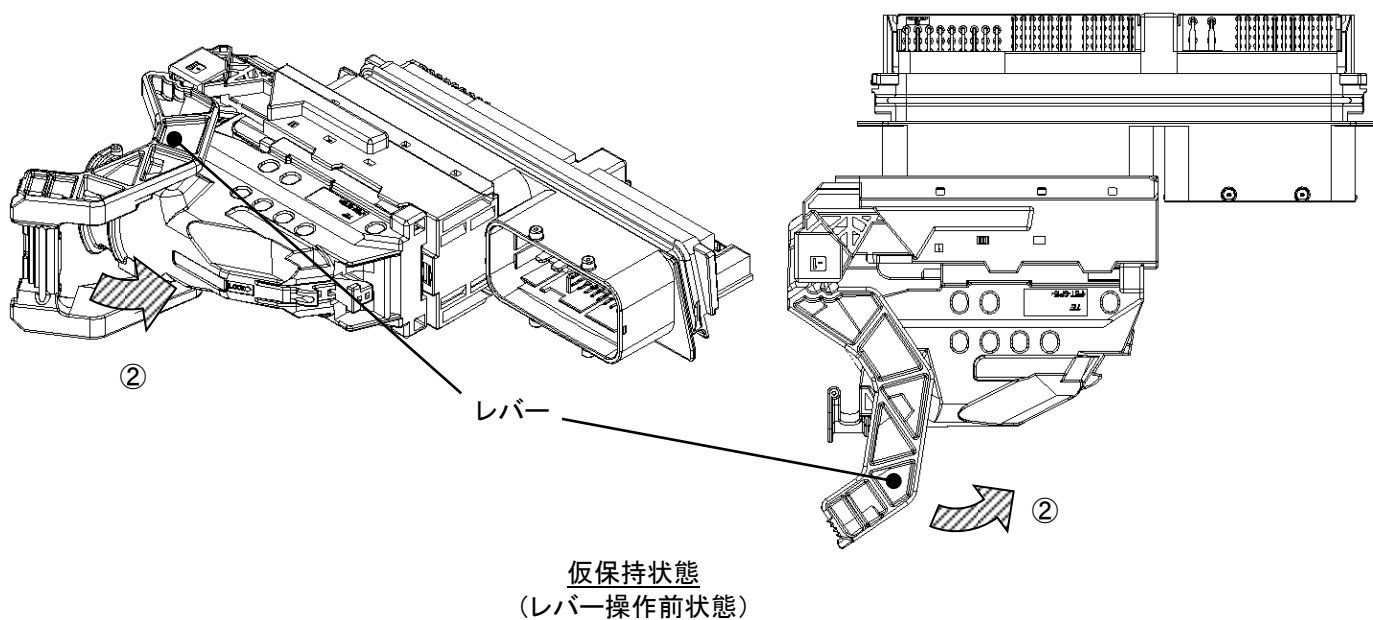


Fig.41

注意 レバー回転時に、電線を噛み込まないで下さい。

- (4) レバーを矢印の方向へ倒し、「パチン」と音がしてそれ以上押込むことが出来なければ嵌合は完了です。
挿入出来ない場合には、無理に押込まず(2)、(3)の項目を再度確認して下さい。

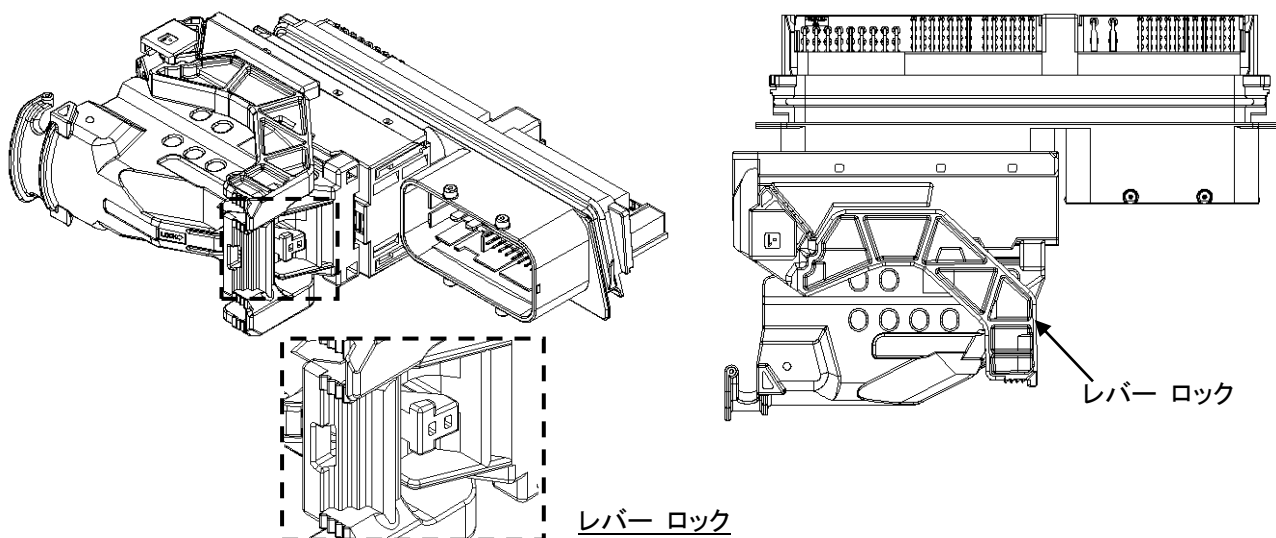


Fig.42

- 注意** レバー操作完了後に、レバーがレバーロックに係っている事を確認して下さい。
注意 レバー操作時に異常を感じたら無理に嵌合させないで、レバーを一度戻してから再操作を行って下さい。
注意 メス コネクタを軽く引張り、メス コネクタが抜けないことを確認して下さい。

7.2 コネクタの引抜き

7.2.1 114 極側

- (1) メス コネクタのレバーロックを①の方向に押し、レバーロックを解除して下さい。
レバーロックを解除した後、レバーを②の方向へ回して下さい。

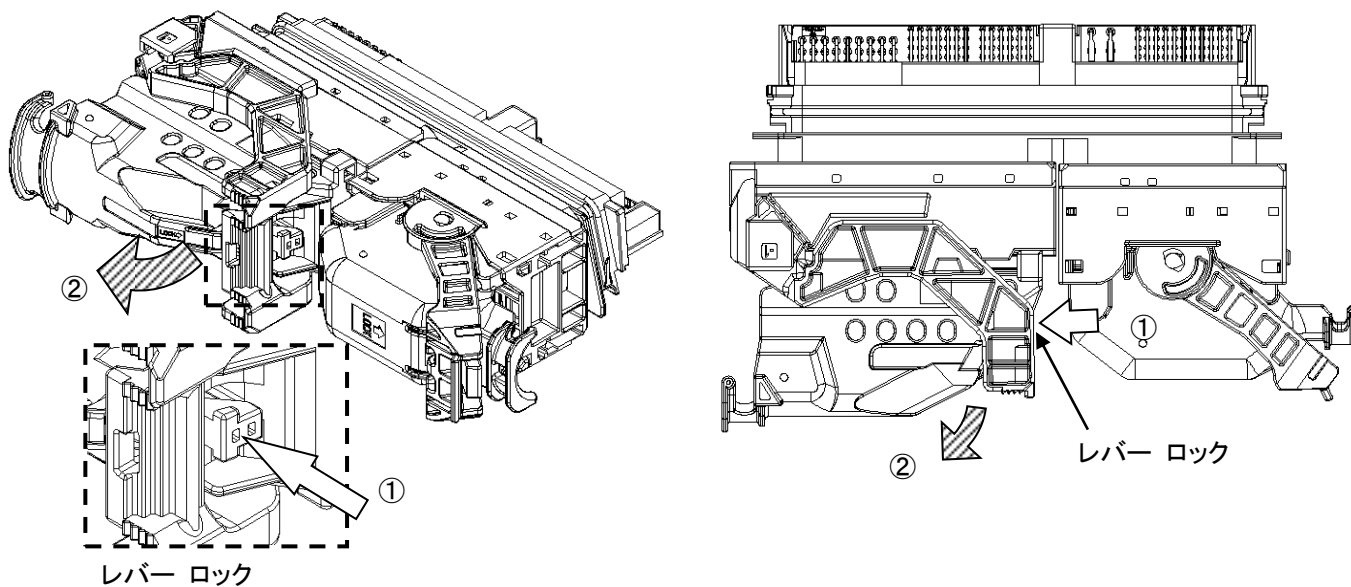


Fig.43

- 注意** レバーが動かない場合、無理に操作せず、レバーロックが解除されているか確認して下さい。
注意 レバー操作時にオス側又は、反対側のメスコネクタを掴まないで下さい。
写真の如く離脱側のメスコネクタを掴んでください。



(2) レバーを離脱方向へ操作し、『パチン』と音がする(仮保持)位置まで回転させて下さい。

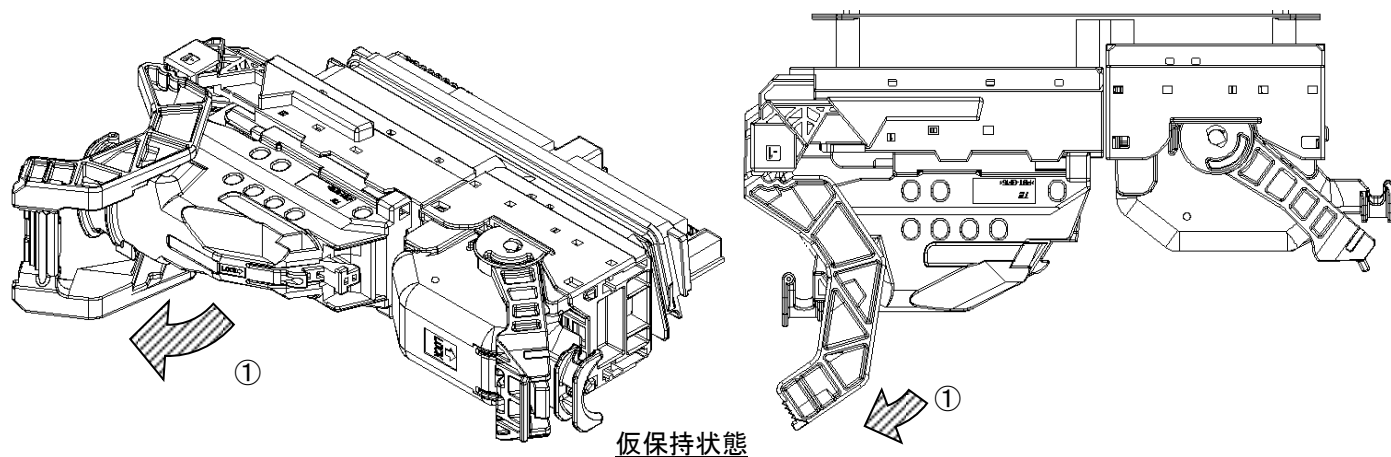


Fig.44

(3) メス コネクタを仮保持状態にした後、メス コネクタ又は、ワイヤ カバーをつかみ、真っ直ぐに引抜いて下さい。引抜けない場合には、無理に引っ張らずに、レバーが仮保持位置にある事を確認して下さい。

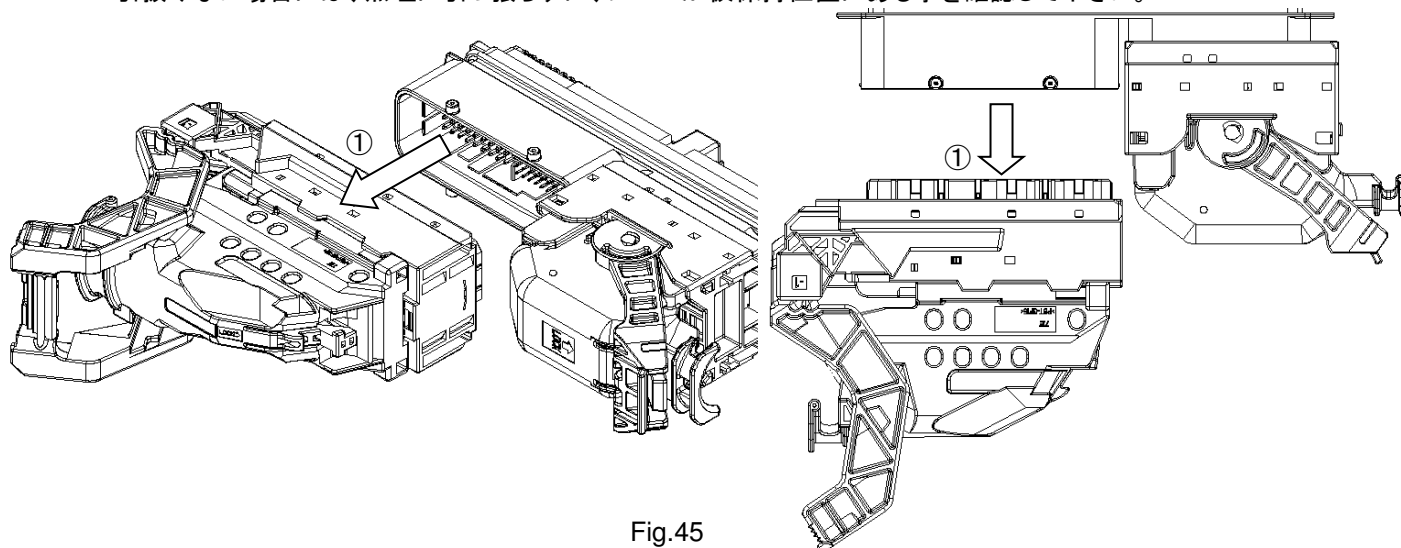


Fig.45

注意 引抜く時にレバーをつかまないで下さい。

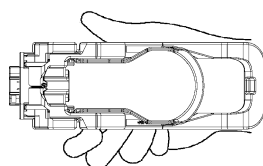


Fig.46

注意 コネクタが抜けない時は、無理に引っ張らず、レバーがデジテントロックを通過している事を確認して下さい。

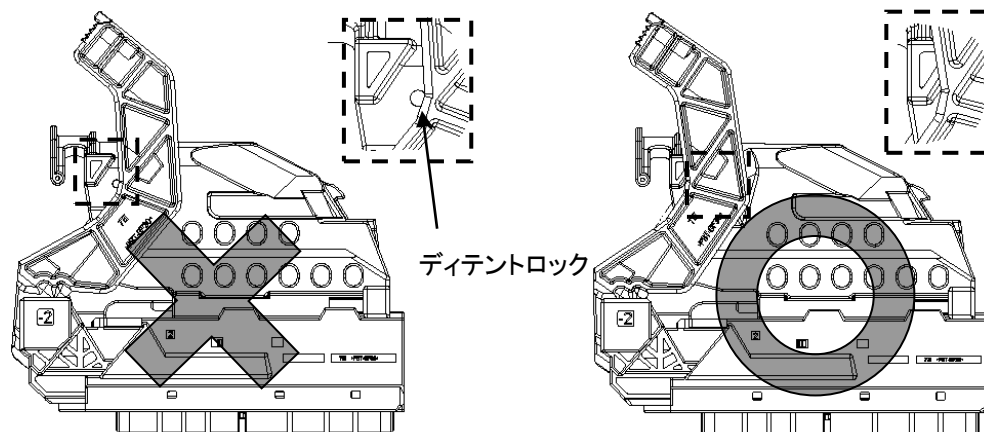


Fig.47

7.2.2 72 極側

- (1) メス コネクタのレバーロック解除ボタンを①の方向に押し、レバーロックを解除して下さい。
レバーロックを解除した後、レバーを②の方向へ回して下さい。

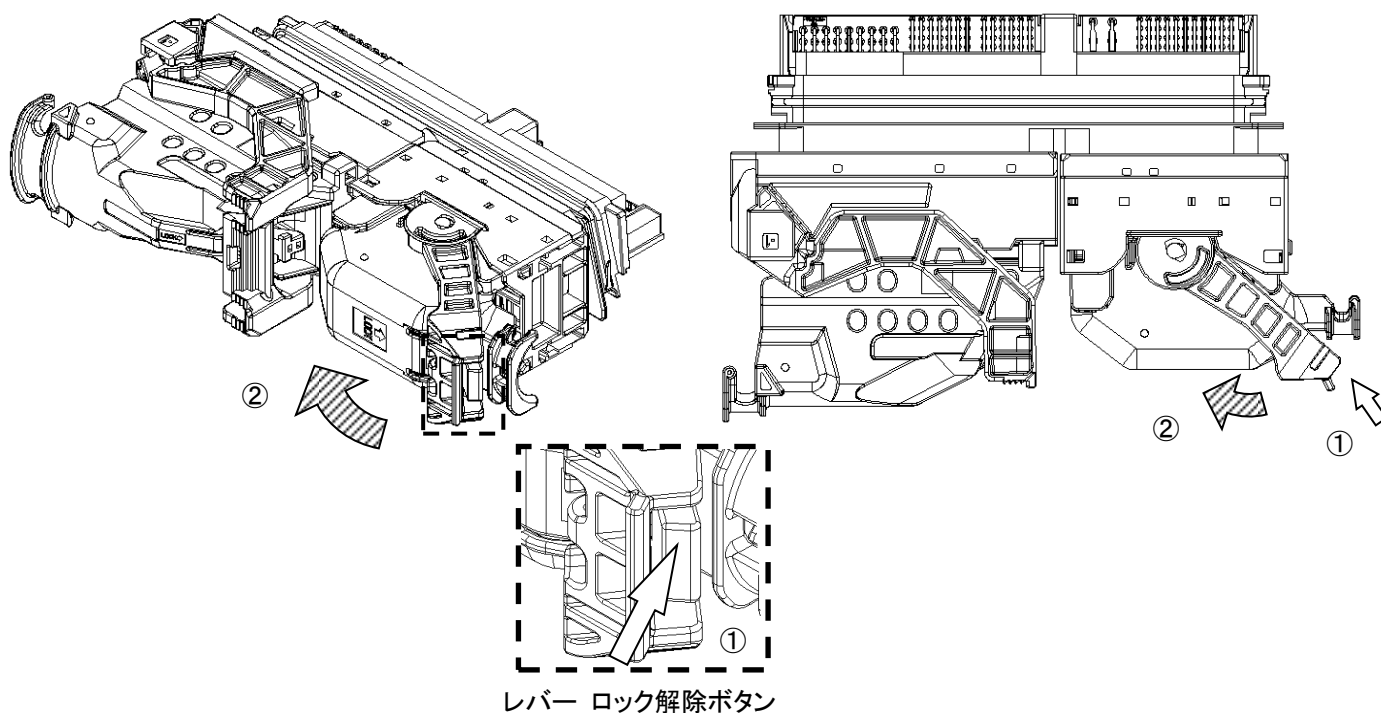


Fig.48

注意
注意

レバーが動かない場合、無理に操作せず、レバーロックが解除されているか確認して下さい。
レバー操作時にオス側又は、反対側のメスコネクタを掴まないで下さい。

- (2) レバーを離脱方向へ操作し、『パチン』と音がする(仮保持)位置まで回転させて下さい。

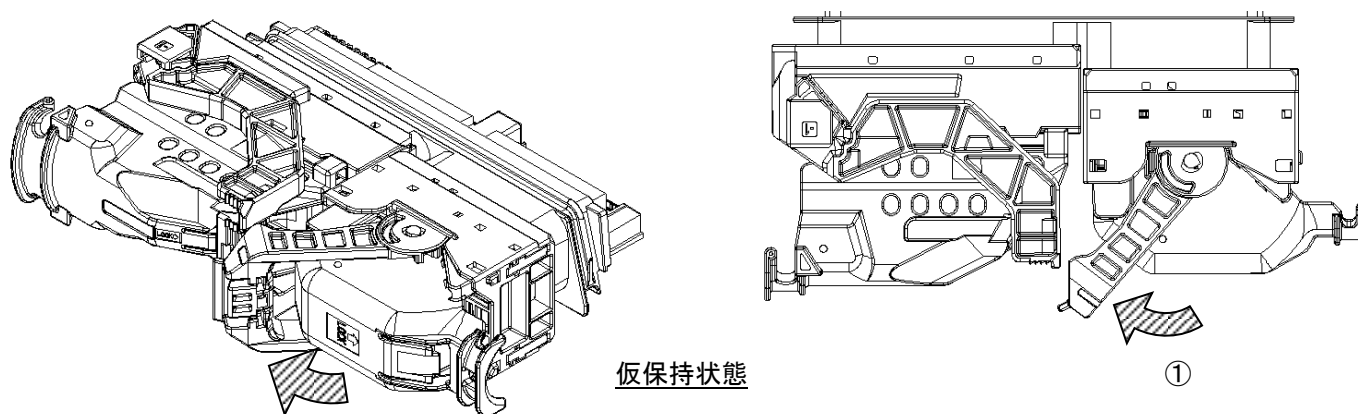


Fig.49

- (3) メス コネクタを仮保持状態にした後、メス コネクタ又は、ワイヤ カバーをつかみ、真っ直ぐに引抜いて下さい。
引抜けない場合には、無理に引っ張らずに、レバーが仮保持位置にある事を確認して下さい。

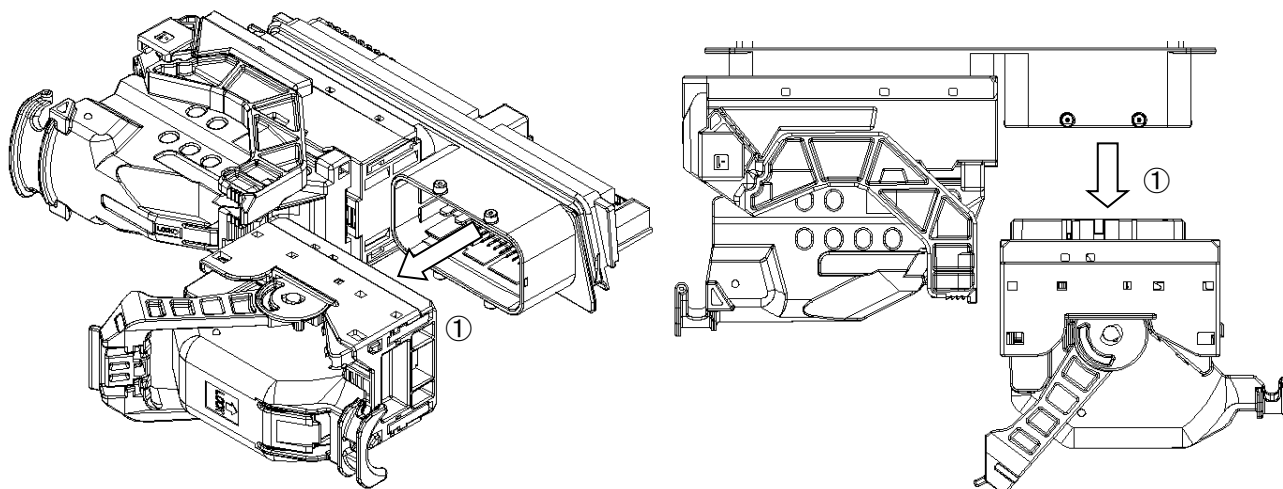


Fig.50

注意 引抜く時にレバーをつかまないで下さい。

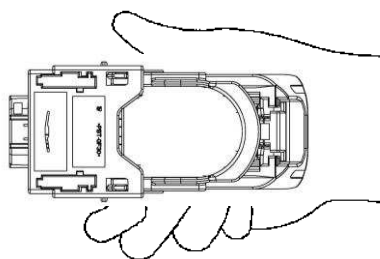


Fig.51

注意 コネクタが抜けない時は、無理に引っ張らず、レバーがデイトロックを通過している事を確認して下さい。

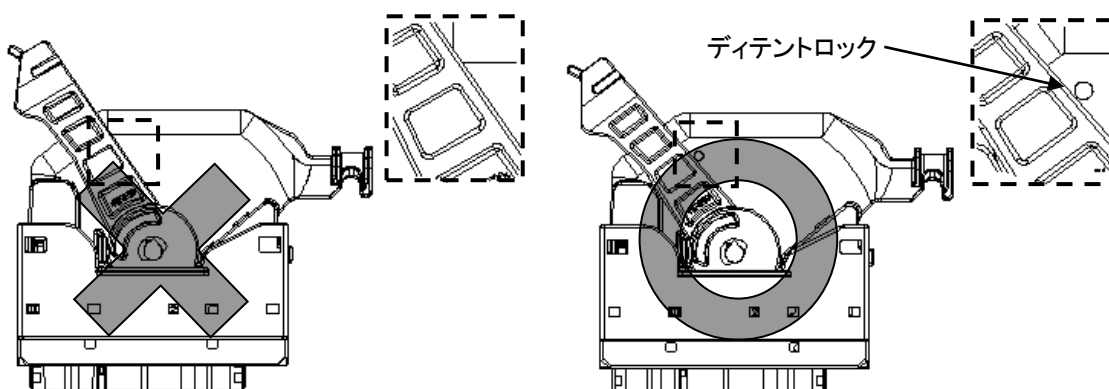


Fig.52

7.3 その他注意事項

- (1)コネクタの無用な抜き差しは避けて下さい。
- (2)絶対に指定コネクタ以外の物を挿入しないで下さい。
- (3)嵌合・引抜き作業時および嵌合後に、電線・コネクタ等に無理な力や衝撃を、与えることのないよう十分に注意願います。